

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年6月21日
【発行者名】	東京海上アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 横田 靖博
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目8番2号
【事務連絡者氏名】	尾崎 正幸
【電話番号】	03 - 3212 - 8421
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	東京海上・円建て投資適格債券ファンド （年2回決算型）
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券の金額】	上限 1兆円
【縦覧に供する場所】	該当なし

第一部【証券情報】

(1)【ファンドの名称】

東京海上・円建て投資適格債券ファンド（年2回決算型）

（なお、愛称として「円債くん（年2回決算型）」という名称を用いる場合があります。以下「当ファンド」ということがあります。）

(2)【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型証券投資信託の受益権です。

当ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定に基づく投資信託の受益権であり、受益権の帰属は、後述の「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関及び当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社である東京海上アセットマネジメント株式会社（以下「委託会社」といいます。）は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。なお、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

当初の1口当たり元本は1円です。

委託会社の依頼により、信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付または信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

(3)【発行（売出）価額の総額】

1兆円を上限とします。

(4)【発行（売出）価格】

取得申込受付日の基準価額

基準価額は、販売会社または委託会社にお問い合わせることにより知ることができます。

委託会社のお問い合わせ先（以下「委託会社サービスデスク」といいます。）

東京海上アセットマネジメント サービスデスク

0120-712-016（土日祝日・年末年始を除く9時～17時）

(5)【申込手数料】

発行価格に1.1%（税抜1%）の率を乗じて得た額を上限として販売会社が個別に定める額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。申込手数料には、消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）が含まれます。

分配金再投資コース（下記「(6)申込単位」をご参照ください。）の収益分配金の再投資により取得する口数については、手数料はありません。

(6)【申込単位】

申込方法には、収益分配金の受取方法によって、以下の2種類のコースがあります。

分配金受取りコース	分配金を受け取るコースです。
分配金再投資コース	分配金が税引き後、自動的に無手数料で再投資されるコースです。

販売会社やお申込みのコース等によって申込単位は異なります。また、販売会社により取扱うコースが異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。（販売会社との間で定額購入サービスに関する契約を締結した場合、当該契約で規定する取得申込単位によるものとします。）

分配金再投資コースにおける収益分配金の再投資に際しては、上記にかかわらず1口単位で取得することができます。

(7)【申込期間】

2024年6月22日から2024年12月23日まで

上記申込期間中の毎営業日にお申込みを受け付けます。

申込期間は、上記期間満了前に委託会社が有価証券届出書を提出することにより更新されます。

(8)【申込取扱場所】

販売会社の本・支店等で取扱います。ただし、一部取扱いを行わない支店等がある場合がありますので、販売会社の最寄りの本・支店等にお問い合わせください。なお、販売会社については、委託会社サービスデスクにお問い合わせください。

(9)【払込期日】

取得申込者は、申込金（発行価格に取得申込口数を乗じて得た額に申込手数料を加算した申込時の支払総額をいいます。）を販売会社所定の期日までに販売会社に支払うものとします。

各取得申込日の発行価額の総額は各追加信託が行われる日に、販売会社から、委託会社の指定する口座を經由して、受託会社である三菱UFJ信託銀行株式会社（以下「受託会社」といいます。）の指定する当ファンドの口座に振込まれます。

(10)【払込取扱場所】

申込金は、お申込みの販売会社にお支払いください。

(11)【振替機関に関する事項】

当ファンドの受益権の振替機関は下記の通りです。

株式会社証券保管振替機構

(12)【その他】

申込の方法

- a. 受益権の取得申込は、販売会社において申込期間中の毎営業日に受け付けます。
- b. 取得申込者は、申込金額相当額の申込金を販売会社に支払うものとします。ただし、当ファンドは上記「(9)払込期日」にしたがい受託会社に払込まれた時点で初めて設定がなされ、取得申込者はその時点から当ファンドの当該設定にかかる受益者となります。申込金には利息を付けません。
- c. 取得申込の受付は、原則として午後3時までの受付分を当日分とし、この受付時間を過ぎてからの申込分は翌営業日の受付分とします。
- d. 上記にかかわらず、取引所（ ）における取引の停止、その他やむを得ない事情が発生し、委託会社が追加設定を制限する措置を取った場合には、販売会社は、受益権の取得申込の受付を中止すること、および既に受け付けた取得申込の受付を取り消すことができます。
（ ）金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場をいいます（以下、本書において同じ。）。
- e. 取得申込者は、販売会社に取引口座を開設のうえ、申込を行うものとします。（ただし、既に取引口座をお持ちの場合を除きます。）
- f. 分配金再投資コースの場合には、申込の際、取得申込者と販売会社の間で、自動けいぞく（累積）投資に関する契約を締結する必要があります。
上記の契約について、別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約等が用いられることがあります。この場合、当該別の名称に読替えるものとします（以下同じ。）。
- g. 定時定額購入サービスを選択した取得申込者は、販売会社との間で定時定額購入サービスに関する取り決めを行います。

日本以外の地域における発行

該当ありません。

振替受益権について

当ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、上記「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則にしたがって取り扱われるものとします。

ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法および上記「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関の業務規程その他の規則にしたがって支払われます。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

主として「東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド」（以下「マザーファンド」ということ
があります。）受益証券に投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目標と
して運用を行います。

基本的性格

当ファンドは、追加型投信／国内／債券に属します。

当ファンドの商品分類表および属性区分表は、以下の通りです。

商品分類表

単位型投信・追加型投信	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型投信	国内	株式
		債券
追加型投信	海外	不動産投信
	内外	その他資産 ()
		資産複合

属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態
株式	年1回	グローバル	ファミリーファンド
一般	年2回	日本	
大型株	年4回	北米	
中小型株	年6回 (隔月)	欧州	
債券	年12回 (毎月)	アジア	
一般	日々	中南米	
公債	その他 ()	アフリカ	
社債		中近東 (中東)	
その他債券 ()		エマージング	
クレジット属性 ()			
不動産投信			ファンド・オブ・ファンズ
その他資産 (投資信託証券(債券 (社債)))			
資産複合 ()			
資産配分固定型			
資産配分変更型			

当ファンドが該当する商品分類・属性区分を網掛け表示しています。

投資形態が、ファミリーファンドまたはファンド・オブ・ファンズに該当する場合、投資信託証券を通じて
投資することとなりますので、商品分類表と属性区分表の投資対象資産が異なります。

商品分類の定義

単位型・追加型	単位型投信	当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われのないファンドをいいます。
	追加型投信	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
投資対象地域	国内	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	海外	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	内外	目論見書または投資信託約款において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資対象資産	株式	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	債券	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	不動産投信（リート）	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	その他資産	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式、債券および不動産投信以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	資産複合	目論見書または投資信託約款において、株式、債券、不動産投信およびその他資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
独立区分	MMF（マネー・マネージメント・ファンド）	一般社団法人投資信託協会の「MMF等の運営に関する規則」に定められるMMFをいいます。
	MRF（マネー・リザーブ・ファンド）	一般社団法人投資信託協会の「MMF等の運営に関する規則」に定められるMRFをいいます。
	ETF	投資信託及び投資法人に関する法律施行令（平成12年政令480号）第12条第1号及び第2号に規定する証券投資信託並びに租税特別措置法（昭和32年法律第26号）第9条の4の2に規定する上場証券投資信託をいいます。
補足分類	インデックス型	目論見書または投資信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいいます。
	特殊型	目論見書または投資信託約款において、投資者に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいいます。

商品分類の定義は、一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」をもとに委託会社が作成しております。

属性区分の定義

投資対象資産	株式	一般	次の大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいいます。
		大型株	目論見書または投資信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいいます。
		中小型株	目論見書または投資信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるものをいいます。
	債券	一般	次の公債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものをいいます。

	公債	目論見書または投資信託約款において、日本国または各国の政府の発行する国債(地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含みます。以下同じ。)に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
	社債	目論見書または投資信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
	その他債券	目論見書または投資信託約款において、公債または社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
	格付等クレジットによる属性	目論見書または投資信託約款において、上記債券の「発行体」による区分のほか、特にクレジットに対して明確な記載があるものについては、上記債券に掲げる区分に加え「高格付債」「低格付債」等を併記します。
	不動産投信	目論見書または投資信託約款において、主として不動産投信に投資する旨の記載があるものをいいます。
	その他資産	目論見書または投資信託約款において、主として株式、債券および不動産投信以外に投資する旨の記載があるものをいいます。
	資産複合	資産配分 固定型
		目論見書または投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については固定的とする旨の記載があるものをいいます。
		資産配分 変更型
		目論見書または投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については、機動的な変更を行う旨の記載があるものもしくは固定的とする旨の記載がないものをいいます。
決算頻度	年1回	目論見書または投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年2回	目論見書または投資信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年4回	目論見書または投資信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年6回(隔月)	目論見書または投資信託約款において、年6回決算する旨の記載があるものをいいます。
	年12回(毎月)	目論見書または投資信託約款において、年12回(毎月)決算する旨の記載があるものをいいます。
	日々	目論見書または投資信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいいます。
	その他	上記属性にあてはまらない全てのものをいいます。
投資対象地域	グローバル	目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	日本	目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	北米	目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	欧州	目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	アジア	目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	オセアニア	目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	中南米	目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

	アフリカ	目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	中近東（中東）	目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	エマージング	目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域（新興成長国（地域））の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資形態	ファミリーファンド	目論見書または投資信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除きます。）を投資対象として投資するものをいいます。
	ファンド・オブ・ファンズ	一般社団法人投資信託協会の「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定されるファンド・オブ・ファンズをいいます。
為替ヘッジ	あり	目論見書または投資信託約款において、為替のフルヘッジまたは一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいいます。
	なし	目論見書または投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。
対象インデックス	日経225	目論見書または投資信託約款において、日経225に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいいます。
	TOPIX	目論見書または投資信託約款において、TOPIXに連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいいます。
	その他	上記指数にあてはまらない全てのものをいいます。
特殊型	ブル・ベア型	目論見書または投資信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動若しくは逆連動（一定倍の連動若しくは逆連動を含む。）を目指す旨の記載があるものをいいます。
	条件付運用型	目論見書または投資信託約款において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果（基準価額、償還価額、収益分配金等）や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいいます。
	ロング・ショート型 ／絶対収益追求型	目論見書または投資信託約款において、特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨若しくはロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨の記載があるものをいいます。
	その他型	目論見書または投資信託約款において、上記特殊型に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいいます。

属性区分の定義は、一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」をもとに委託会社が作成しております。

信託金の限度額

当ファンドの信託金限度額は、信託約款の定めにより1兆円となっています。ただし、受託会社と合意のうえ、変更することができます。

ファンドの特色

1

円建ての社債を中心に投資します。

- 実質的に、わが国の法人が発行する円建ての社債を中心に投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目標として運用を行います。
- 日本円で発行する債券に投資を行いますので、為替変動リスクがありません。

<投資する債券の範囲>

- 主としてわが国の法人が発行する円建ての社債（金融機関劣後債、生保基金債等を含みます。）を中心に投資を行います。
- ポートフォリオ利回り向上のため、社債以外の円建ての債券等にも幅広く投資を行う場合があります。
- 流動性確保の観点から、国債や地方債等に投資を行う場合があります。

金融機関劣後債

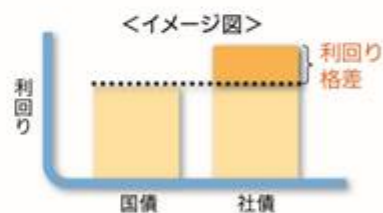
銀行の自己資本比率を高めることを目的に発行される債券で、一般の債権者よりも債務弁済の順位が劣る社債のことです。

生保基金債

生命保険会社の基金（株式会社という資本金）を裏づけとして発行される証券のことです。

社債の利回りについて

- 一般的に、発行体（企業等）の信用度や市場での流動性等のリスクが、国債と社債の利回り格差になります。
- 発行体の信用度の違い等に応じて、利回り格差は異なります。



次ページへ続く

資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

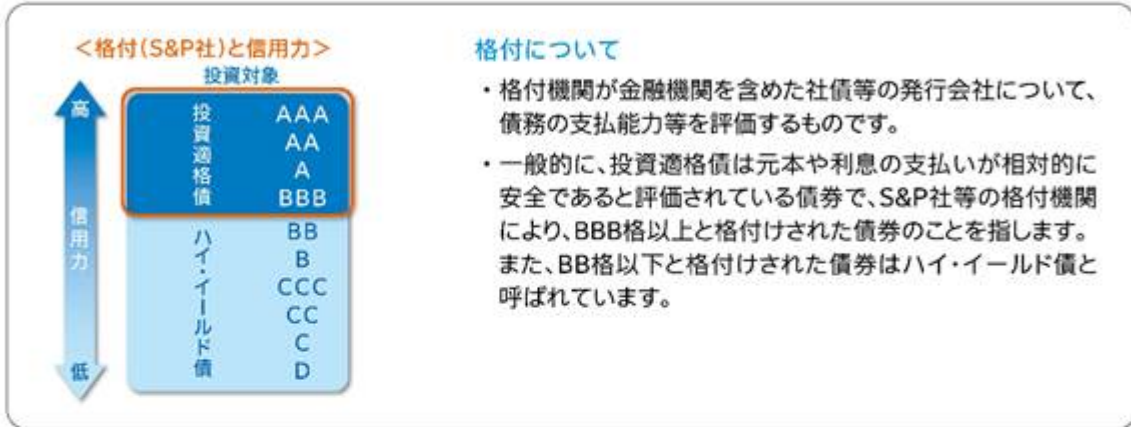
2

投資する債券は投資適格の債券とします。

- 投資する債券は、取得時において投資適格相当以上の格付を取得している債券*1、もしくはそれらと同等の信用力を有すると考えられる債券*2を投資対象とします。

*1 Moody's社、S&P社、R&I社、JCR社、Fitch社(2024年3月現在)のいずれかからBBB格相当以上の格付を取得しているもの

*2 無格付の地方債・政府保証債等

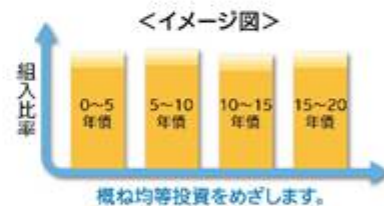


3

残存年限の異なる債券に分散投資します。

- ファンドでは、投資する債券の残存年限を幅広く分散させることにより、できる限り金利変動リスクを平均化させ、安定した収益の確保をめざします。

※一般的に、残存期間が長い債券ほど金利変動時の価格変動が大きくなる傾向にあります。



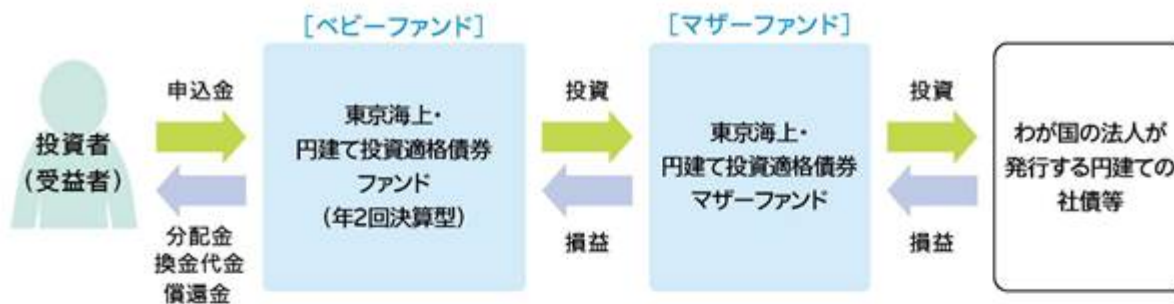
※なお、残存期間が20年超の債券にも投資する場合があります。

次ページへ続く

資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

ファンドの仕組み

- ファミリーファンド方式により運用を行います。



※「ファミリーファンド方式」とは、受益者の投資資金をベビーファンドとしてまとめ、その資金を主としてマザーファンドに投資することにより、実質的な運用をマザーファンドにて行う方式です。ベビーファンドがマザーファンドに投資するに際しての投資コストはかかりません。また、他のベビーファンドが、マザーファンドへ投資することがあります。

主な投資制限

株式	株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 (ただし、転換社債の転換、新株引受権の行使および新株予約権の行使により取得する場合に限りません。)
外貨建資産	外貨建資産への投資は行いません。
デリバティブ等	デリバティブ取引等は、投資の対象とする資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的、価格変動リスクおよび金利変動リスクを回避する目的以外には利用しません。

分配方針

◎年2回決算を行います。

- 3月および9月の各23日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として次の方針に基づき分配を行います。

分配対象額は、経費控除後の、繰越分を含めた配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

収益分配金額は、委託会社が基準価額の水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には、収益分配を行わないことがあります。

《イメージ図》

決算	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
分配			👛						👛			

①上図はイメージ図であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について、示唆・保証するものではありません。実際の分配金額は運用実績に応じて決定されます。

次ページへ続く

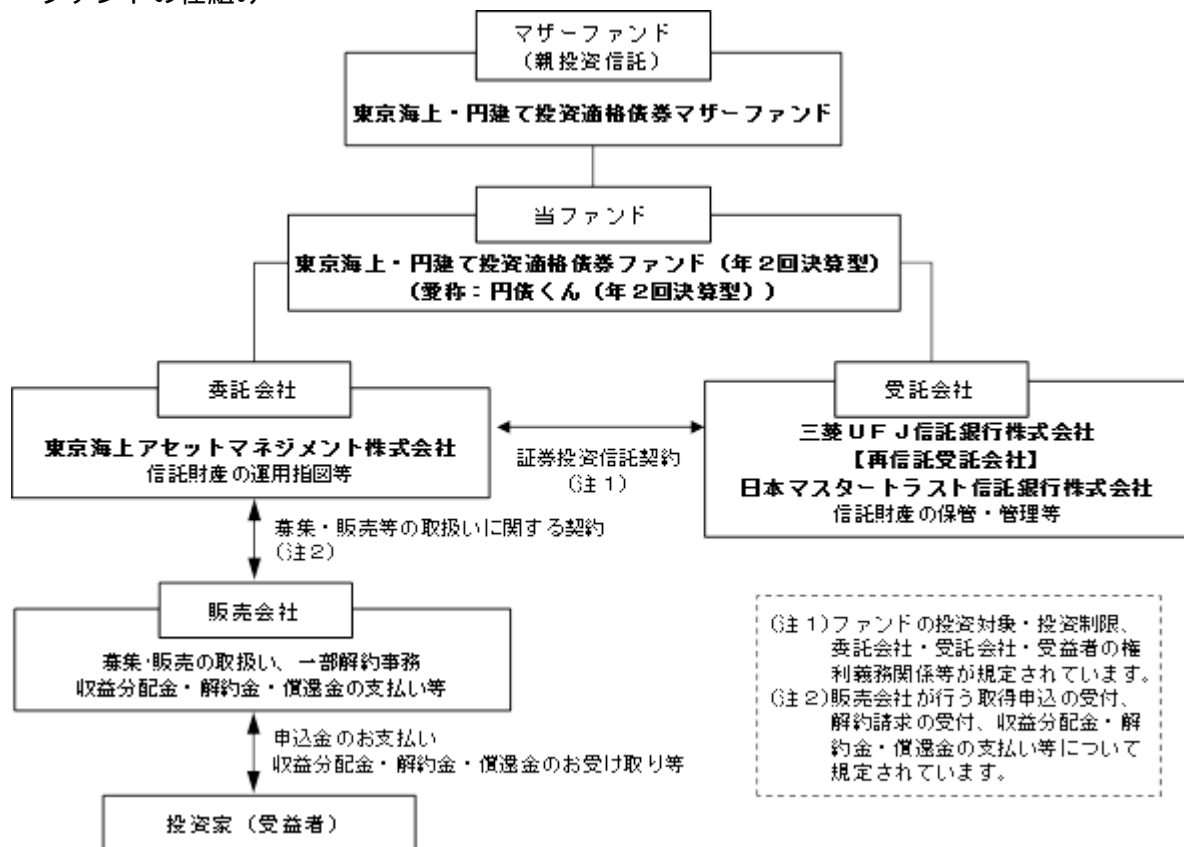
資金動向および市況動向によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(2) 【ファンドの沿革】

2010年5月28日 ファンドの設定、運用開始

(3) 【ファンドの仕組み】

ファンドの仕組み



委託会社の概況

- ・名称 東京海上アセットマネジメント株式会社
- ・資本金の額 20億円（2024年3月末日現在）
- ・会社の沿革

1985年12月 東京海上グループ（現：東京海上日動グループ）等の出資により、資産運用ビジネスの戦略的位置付けで、東京海上エム・シー投資顧問株式会社の社名にて資本金2億円で設立

1987年2月 投資顧問業者として登録

同年6月 投資一任業務認可取得

1991年4月 国内および海外年金の運用受託を開始

1998年5月 東京海上アセットマネジメント投信株式会社に社名変更し、投資信託法上の委託会社としての免許取得

2007年9月 金融商品取引業者として登録

2014年4月 東京海上アセットマネジメント株式会社に社名変更

2018年10月 東京海上不動産投資顧問株式会社と合併

- ・大株主の状況（2024年3月末日現在）

株主名	住所	所有株数	所有比率
東京海上ホールディングス株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目2番1号	38,300株	100.0%

2【投資方針】

(1)【投資方針】

1．基本方針

当ファンドは、主として「東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド」受益証券に投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目標として運用を行います。

2．運用方法

(1) 主要投資対象

主としてマザーファンド受益証券に投資し、高位の組入比率を維持します。なお、有価証券等の資産に直接投資することがあります。

(2) 投資態度

主として、わが国の法人が発行する円建ての社債（金融機関劣後債、生保基金債等を含みます。）を中心に投資を行うマザーファンド受益証券に投資します。

当ファンドの運用は、ファミリーファンド方式により行います。したがって、実質的な運用は、マザーファンドで行うこととなります。

資金動向、市況動向、残存期間等の事情によっては、上記のような運用が出来ない場合があります。

< 参考情報 > マザーファンドの運用の基本方針、主な投資対象と投資制限（要約）

東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド

1．基本方針

安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目標として運用を行います。

2．運用方法

(1) 主要投資対象

主としてわが国の法人が発行する円建ての社債（金融機関劣後債、生保基金債等を含みます。以下、同じ。）を中心に投資します。

(2) 投資態度

主としてわが国の法人が発行する円建ての社債を中心に投資を行い、インカムゲインの確保と信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。

投資する債券は、取得時においてBBB格相当以上の格付を取得している債券、もしくはそれらと同等の信用力を有すると考えられる債券を投資対象とします。

組入銘柄は、投資する債券等の残存年限を幅広く分散することにより、できる限り金利変動リスクを平均化し、収益性の確保を目指します。

ポートフォリオ利回り向上のため、社債以外の円建ての債券等に幅広く投資を行う場合があります。また、流動性確保の観点から、国債や地方債等にも投資を行う場合があります。

3．運用制限

(1) 株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。（ただし、転換社債の転換、新株引受権の行使および新株予約権の行使により取得する場合に限りません。）

(2) 外貨建資産への投資は行いません。

(3) 新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以下とします。

(4) 上場投資信託証券を除く投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

(5) 同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

(6) 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

(7) 同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

(8) デリバティブ取引（法人税法第61条の5に定めるものをいいます。）は、価格変動および金利変動により生じるリスクを減じる目的ならびに投資の対象とする資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。

資金動向、市況動向、残存期間等の事情によっては、上記のような運用が出来ない場合があります。

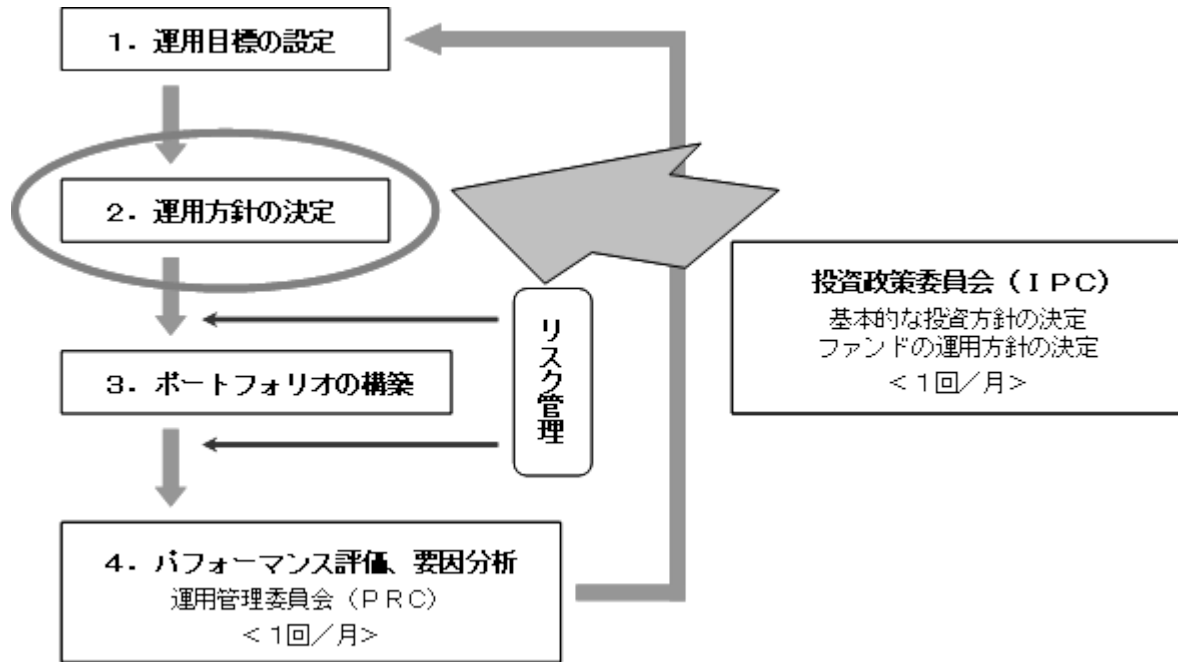
(2)【投資対象】

1. 当ファンドにおいて投資の対象とする資産（本邦通貨表示のものに限ります。）の種類は、次に掲げるものとします。
 - (1) 次に掲げる特定資産（投資信託及び投資法人に関する法律施行令第3条で定めるものをいいます。以下同じ。）
 - 有価証券
 - デリバティブ取引にかかる権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款第22条、第23条および第24条に定めるものに限ります。）
 - 金銭債権（ に掲げるものに該当するものを除きます。）
 - 約束手形（金融商品取引法第2条第1項第15号に掲げるものを除きます。）
 - (2) 次に掲げる特定資産以外の資産
為替手形
2. 委託会社は、信託金を、主として東京海上アセットマネジメント株式会社を委託会社とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託会社として締結された「東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド」の受益証券および次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除くものとし、本邦通貨表示のものに限ります。）に投資することを指図します。
 - (1) 転換社債の転換、新株引受権の行使および新株予約権の行使により取得した株券および新株引受権証書
 - (2) 国債証券
 - (3) 地方債証券
 - (4) 特別の法律により法人の発行する債券
 - (5) 社債券（新株引受権証券と社債券が一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券を除きます。）
 - (6) 特定目的会社にかかる特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
 - (7) 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）
 - (8) 協同組織金融機関にかかる優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）
 - (9) 特定目的会社にかかる優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）
 - (10) コマーシャル・ペーパー
 - (11) 新株引受権証券（新株引受権証券と社債券が一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。）および新株予約権証券
 - (12) 外国または外国の者の発行する証券または証書で、上記(1)から(11)までの証券または証書の性質を有するもの
 - (13) 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
 - (14) 投資証券、投資法人債券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）
 - (15) 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
 - (16) オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券にかかるものに限ります。）
 - (17) 預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
 - (18) 外国法人が発行する譲渡性預金証書
 - (19) 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）
 - (20) 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）
 - (21) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
 - (22) 外国の者に対する権利で上記(21)の有価証券の性質を有するものなお、(1)の証券または証書、(12)および(17)の証券または証書のうち(1)の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、(2)から(6)までの証券、(12)および(17)の証券または証書のうち(2)から(6)までの証券の性質を有するものならびに(14)の投資法人債券を以下「公社債」といい、(13)の証券および(14)の証券（投資法人債券を除きます。）を以下「投資信託証券」といいます。
3. 委託会社は、信託金を、上記2. に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することができます。
 - (1) 預金
 - (2) 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）

- (3) コール・ローン
 (4) 手形割引市場において売買される手形
 (5) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
 (6) 外国の者に対する権利で上記(5)の権利の性質を有するもの
4. 上記2.の規定にかかわらず、当ファンドの設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときは、委託会社は、信託金を、上記3.に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

(3) 【運用体制】

当ファンドの運用体制は以下の通りです。



ファンドの運用に関する社内規則として「投資運用業に係る業務運営規程」を設けております。

運用におけるリスク管理は、運用リスク管理部門（5～10名程度）による法令・運用ガイドライン等の遵守状況のチェックや運用リスク項目のチェック等が随時実施され、担当運用部へフィードバックされるとともに、原則として月1回開催される運用管理委員会（運用リスク管理部門担当役員を委員長に、運用・営業・商品企画などファンド運用に関係する各部長が参加）において投資行動の評価が行われます。（リスク管理についての詳細は、「3 投資リスク」の「3.管理体制」をご参照ください）

この運用管理委員会での評価もふまえて、投資政策委員会（運用本部長を委員長とし、各運用部長が参加）において運用方針を決定し、より質の高い運用体制の維持・向上を目指します。

また、受託銀行等の管理については、関連部署において、受託銀行業務等に関する「内部統制の整備及び運用状況報告書」の入手・検証、現地モニタリング等を通じて実施しております。

（上記の体制や人員等については、2024年3月末日現在）

(4)【配分方針】

年2回（原則として3月および9月の各23日、休業日の場合は翌営業日）決算を行い、毎決算時に原則として以下の通り収益分配を行う方針です。

分配対象額は、経費控除後の、繰越分を含めた配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。収益分配金額は、委託会社が基準価額の水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には、収益分配を行わないことがあります。なお、収益の分配に充当せず、信託財産内に留保した利益については、投資方針に基づいて運用を行います。

信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

- a. 配当金、利子、貸付有価証券にかかる品貸料およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額（「配当等収益」といいます。）は、諸経費（ ）、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除した後、その残額を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。
 - b. 売買損益に評価損益を加減した利益金額（以下「売買益」といいます。）は、諸経費（ ）、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。
- （ ）諸経費とは、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用（消費税等相当額を含みます。）、信託財産の財務諸表の監査に要する費用（消費税等相当額を含みます。）ならびに受託会社の立替えた立替金の利息をいいます。

計算期末において信託財産に損失が生じた場合は、次期に繰越します。

分配金は、毎計算期間終了後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日まで）から、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益者にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、）に、お支払いします。なお、「分配金再投資コース」をお申込みの場合は、分配金は税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資されますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

(5)【投資制限】

運用の基本方針に基づく制限（約款別紙「運用の基本方針」）

- a. 委託会社は、信託財産に属する株式の時価総額とマザーファンドに属する株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。（ただし、転換社債の転換、新株引受権の行使および新株予約権の行使により取得する場合に限ります。）
信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額に、マザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。（以下同じ）
- b. 外貨建資産への投資は行いません。
- c. 委託会社は、信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドに属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。
- d. 委託会社は、信託財産に属する投資信託証券（マザーファンド受益証券ならびに取引所に上場し、かつ当該取引所において常時売却可能な投資信託証券、また既に組入れていた株式等が転換等により投資信託証券に該当することとなった投資信託証券を除きます。）の時価総額とマザーファンドに属する投資信託証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。
- e. 委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額とマザーファンドに属する当該同一銘柄の株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。
- f. 委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドに属する当該同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。
- g. 委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の転換社債ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）の時価総額とマザーファンドに属する当該同一銘柄の転換社債ならびに

転換社債型新株予約権付社債の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

- h. デリバティブ取引(法人税法第61条の5に定めるものをいいます。)は、価格変動および金利変動により生じるリスクを減じる目的ならびに投資の対象とする資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。

投資する株式等の範囲(約款第19条)

- a. 委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、取引所に上場されている株式の発行会社の発行するものおよび取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。
- b. 上記a.の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては、委託会社が投資することを指図することができるものとします。

信用取引(約款第21条)

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付の決済については、株券の引渡または買戻により行うことの指図をすることができるものとします。
- b. 上記a.の信用取引の指図は、当該売付にかかる建玉の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該売付にかかる建玉の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- c. 信託財産の一部解約等の事由により、上記b.の売付にかかる建玉の時価総額の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付の一部を決済するための指図をするものとします。

先物取引等(約款第22条)

- a. 委託会社は、日本国内の取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。)および有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。)ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めるものとします(以下同じ。)。
- b. 委託会社は、日本国内の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

スワップ取引(約款第23条)

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行うことの指図をすることができます。
- b. スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- c. スワップ取引の評価は、市場実勢金利等をもとに算出した価額で行うものとします。
- d. 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入が必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入の指図を行うものとします。

金利先渡取引(約款第24条)

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、金利先渡取引を行うことの指図をすることができます。
- b. 金利先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- c. 金利先渡取引の評価は、市場実勢金利等をもとに算出した価額で行うものとします。
- d. 委託会社は、金利先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入が必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入の指図を行うものとします。

デリバティブ取引等に係る投資制限(約款第24条の2)

デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則の定めるところにしたがい、合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えないものとします。

有価証券の貸付(約款第25条)

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の範囲内で貸付の指図をすることができます。
- ・株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。

- ・公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
- b. 上記a. に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- c. 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入の指図を行うものとします。

有価証券の空売(約款第26条)

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産において有しない有価証券または下記「有価証券の借入」の規定により借入れた有価証券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付の決済については、売付けた有価証券の引渡または買戻により行うことの指図をすることができるものとします。
- b. 上記a. の売付の指図は、当該売付にかかる有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲で行うことができるものとします。
- c. 信託財産の一部解約等の事由により、上記b. の売付にかかる有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その額を超える額に相当する売付の一部を決済するための指図をするものとします。

有価証券の借入(約款第27条)

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、有価証券の借入の指図をすることができます。なお、当該有価証券の借入を行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行うものとします。
- b. 上記a. の借入の指図は、当該借入にかかる有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲で行うことができるものとします。
- c. 信託財産の一部解約等の事由により、上記b. の借入にかかる有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借入れた有価証券の一部を返還するための指図をするものとします。
- d. 上記a. の借入にかかる品借料は信託財産中から支弁します。

信用リスク集中回避のための投資制限(約款第27条の2)

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

資金の借入(約款第33条)

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- b. 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。
- c. 収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- d. 借入金の利息は信託財産中から支弁します。

3【投資リスク】

1. 投資リスク

以下の記載は、当ファンドが主要投資対象とするマザーファンドを組み入れることにより、当ファンドが間接的に受ける実質的なリスクを含みます。

(1) 価格変動リスク

当ファンドは、主に国内の公社債など値動きのある証券を実質的な投資対象としますので、基準価額は変動します。したがって、当ファンドは元本が保証されているものではありません。

委託会社の運用指図によって信託財産に生じた利益および損失は、全て投資家に帰属します。

投資信託は預貯金や保険と異なります。

当ファンドへの投資には主に以下のリスクが想定され、これらの影響により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

金利変動リスク

公社債は、一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、反対に金利が下落した場合には価格は上昇します。したがって、金利が上昇した場合、基準価額が下落する要因となります。

信用リスク

一般に、公社債や短期金融商品等の発行体にデフォルト(債務不履行)が生じた場合、またはデフォルトが予想される場合には、当該公社債等の価格は大幅に下落することになります。したがって、組入公社債等にデフォルトが生じた場合、またデフォルトが予想される場合には、基準価額が下落する要因となります。

流動性リスク

受益者から解約申込があった場合、組入資産を売却することで解約資金の手当てを行うことがあります。その際、組入資産の市場における流動性が低いときには直前の市場価格よりも大幅に安い価格で売却せざるを得ないことがあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

劣後債など固有のリスク

劣後債はデフォルトが生じた場合、元利金の支払順位が一般の社債よりも低い社債です。

繰上償還条項が設定されている劣後債などが、市況動向などにより繰上償還が実施されない場合や繰上償還されないと予想される場合には、当該証券の価格が大きく下落する可能性があります。また、利息や配当の支払繰延条項がある場合は、発行体の業績の著しい悪化などにより、支払いが繰り延べられる可能性があります。

(2) デリバティブ取引のリスク

当ファンドはデリバティブに投資することがあります。デリバティブの運用には、ヘッジする商品とヘッジされるべき資産との間の相関性を欠いてしまう可能性、流動性を欠く可能性、証拠金を積むことによるリスク等様々なリスクが伴います。これらの運用手法は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避する目的のみならず、効率的な運用に資する目的でも用いられることがあります。実際の価格変動が委託会社の見通しと異なった場合に当ファンドが損失を被るリスクを伴います。

2. その他の留意事項

(1) 一般的な留意事項

投資信託は、その商品性格から次の特徴をご理解のうえご購入ください。

- ・投資信託は株式・公社債などの値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。
- ・投資信託は金融機関の預金と異なり元金が保証されているものではありません。
- ・投資信託は保険契約および預金ではありません。
- ・投資信託は保険契約者保護機構の補償対象契約ではありません。
- ・投資信託は預金保険の対象ではありません。
- ・登録金融機関から購入した投資信託は投資者保護基金の補償対象ではありません。
- ・当ファンドは、主に国内の公社債を実質的な投資対象としています。当ファンドの基準価額は、組入れた公社債の値動きやそれらの公社債の発行者の信用状況の変化等の影響により上下しますので、投資元本を割り込むことがあります。したがって、当ファンドは元本が保証されているものではありません。
- ・委託会社の運用指図によって信託財産に生じた利益および損失は、全て投資家に帰属します。

(2) 法令・税制・会計等の変更可能性

法令・税制・会計方法等は今後変更される可能性があります。

(3) その他の留意点

取得申込者から販売会社に申込代金が支払われた場合であっても、販売会社より委託会社に対して申込代金の払込が現実になされるまでは、当ファンドも委託会社もいかなる責任も負わず、かつその後、受託会社に払込がなされるまでは、取得申込者は受益権および受益権に付随するいかなる権利も取得しません。

一部解約金、収益分配金および償還金の支払は全て販売会社を通じて行われます。

委託会社は、販売会社とは別法人であり、委託会社は設定・運用を善良なる管理者の注意をもって行う責任を負担し、販売会社は販売（申込代金の預り等を含みます。）について責任を負担しており、互いに他について責任を負担しません。

受託会社は、委託会社に収益分配金、一部解約金および償還金を委託会社の指定する預金口座等へ払い込んだ後は、受益者に対し、それらを支払う責任を負いません。

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

当ファンドは、大量の解約申込が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額が下落する可能性や、換金のお申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを投資対象とする他のベビーファンドに追加設定・解約等に伴う資金変動等があり、その結果、当該マザーファンドにおいて売買等が生じた場合等には、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。受益者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全額が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

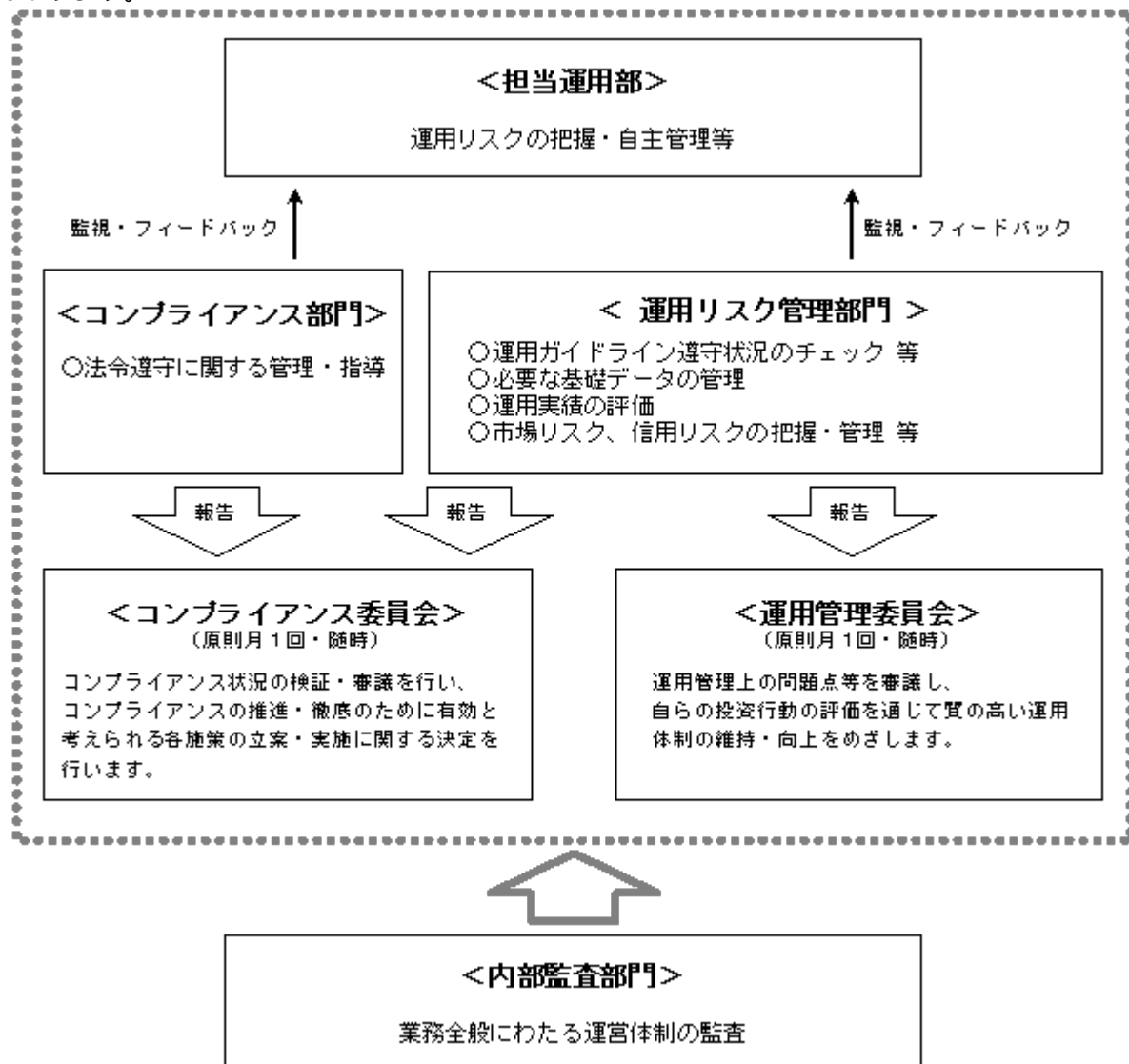
3. 管理体制

<リスク管理体制>

委託会社のリスク管理体制は、担当運用部が自主管理を行うと同時に、担当運用部とは独立した部門において厳格に実施される体制としています。

法令等の遵守状況についてはコンプライアンス部門が、運用リスクの各項目および運用ガイドラインの遵守状況については運用リスク管理部門が、それぞれ適切な運用が行われるよう監視し、担当運用部へのフィードバックおよび所管の委員会への報告・審議を行っています。

これらの内容については、社長をはじめとする関係役員に随時報告が行われるとともに、内部監査部門がこれらの業務全般にわたる運営体制の監査を行うことで、より実効性の高いリスク管理体制を構築しております。



<流動性リスク管理>

委託会社では、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリング等を実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証等を行います。

取締役会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

参考情報

2019年4月～2024年3月

ファンドの年間騰落率および
分配金再投資基準価額の推移

過去5年間の各月末における分配金再投資基準価額と直近1年間の騰落率を表示したものです。

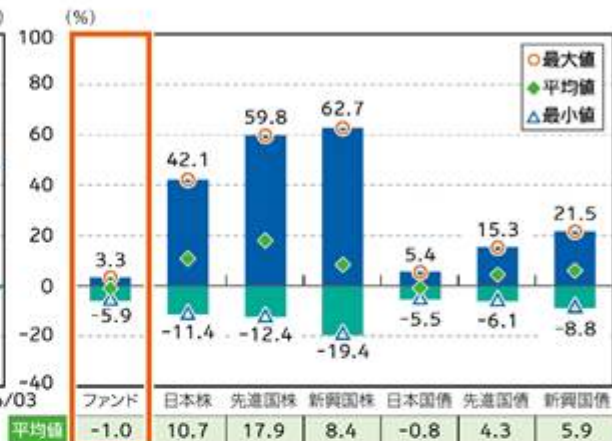


※分配金再投資基準価額は、税引前分配金を再投資したものと計算した基準価額であり、実際の基準価額とは異なる場合があります。

※年間騰落率は、税引前分配金を再投資したものと計算しているため、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

ファンドと代表的な資産クラスとの
騰落率の比較

ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。過去5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。



※全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※ファンドは分配金再投資基準価額の年間騰落率です。税引前分配金を再投資したものと計算しているため、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

代表的な資産クラスと指数名

日本株	TOPIX (東証株価指数) (配当込み)
先進国株	MSCIコクサイ指数 (配当込み、円ベース)
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)
新興国債	JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

指数について

●TOPIXの指数値およびTOPIXにかかる商標または商標は、株式会社J.P.X. 総研または株式会社J.P.X. 総研の関連会社 (以下、J.P.X.とします。) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用等TOPIXに関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIXにかかる商標または商標に関するすべての権利はJ.P.X.が有します。J.P.X.は、TOPIXの指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。ファンドは、J.P.X.により提供、保証または販売されるものではなく、ファンドの設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJ.P.X.は責任を負いません。 ●MSCIコクサイ指数の著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI社に帰属します。また、MSCI社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI社の許諾なしにインデックスの一部または全部を複製、頒布、使用等することは禁じられています。MSCI社はファンドとは関係なく、ファンドから生じるいかなる責任も負いません。 ●MSCIエマージング・マーケット・インデックスの著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI社に帰属します。また、MSCI社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI社の許諾なしにインデックスの一部または全部を複製、頒布、使用等することは禁じられています。MSCI社はファンドとは関係なく、ファンドから生じるいかなる責任も負いません。 ●NOMURA-BPI (国債) に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ・コンサルティング株式会社に帰属します。 ●FTSE世界国債インデックスは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、遅延または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。 ●JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

(注)海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

上記は過去の実績であり、将来の動向等を示唆・保証するものではありません。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

発行価格に1.1%（税抜1%）の率を乗じて得た額を上限として販売会社が個別に定める額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。申込手数料には、消費税等が含まれます。申込手数料は、商品の説明、購入に関する事務コスト等の対価として、申込時にご負担いただくものです。分配金再投資コースの収益分配金の再投資により取得する口数については、手数料はありません。

(2)【換金（解約）手数料】

換金時（解約時）の手数料はありません。

(3)【信託報酬等】

委託会社、販売会社および受託会社の信託報酬の総額は信託財産の純資産総額に対し、の信託報酬率を乗じて得た金額とし、計算期間を通じて、毎日計上します。信託報酬率は、毎計算期末において見直すこととし、各前月末における日本相互証券株式会社の発表する新発10年固定利付国債の利回り（終値）に応じて以下の通り決定され、毎計算期末の翌日から適用するものとします。

新発10年固定利付国債の利回り	委託会社（税抜） ^{*1}	販売会社（税抜） ^{*2}	受託会社（税抜） ^{*3}	合計
3%未満の場合	年率0.25%	年率0.25%	年率0.02%	年率0.572% （税抜0.52%）
3%以上 4%未満の場合	年率0.3%	年率0.3%	年率0.02%	年率0.682% （税抜0.62%）
4%以上 5%未満の場合	年率0.35%	年率0.35%	年率0.02%	年率0.792% （税抜0.72%）
5%以上の場合	年率0.4%	年率0.4%	年率0.02%	年率0.902% （税抜0.82%）

*1 委託した資金の運用、基準価額の計算、目論見書作成等の対価

*2 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価

*3 運用財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行の対価

の信託報酬（消費税等相当額を含みます。）は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。

(4)【その他の手数料等】

信託財産の財務諸表の監査に要する費用（消費税等相当額を含みます。）は、監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用であり、毎日、純資産総額に対し、年率0.011%（税抜0.01%）を乗じて得た金額（ただし、年66万円（税抜60万円）の1日分相当額を上限とします。）を計上し、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。

信託財産に関する租税および信託事務等に要する諸費用（消費税等相当額を含みます。）ならびに受託会社の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、先物・オプション取引に要する費用、外国における資産の保管等に要する費用等（全て消費税等相当額を含みます。）は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

信託財産の一部解約に伴う支払資金の手当て、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当て等を目的として資金借入れの指図を行った場合、借入金の利息は受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

監査費用を除くその他の手数料等については実際の取引等により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。

上記(1)から(4)の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

(5)【課税上の取扱い】

課税上は、株式投資信託として以下のような取扱いとなります。なお、税法が改正された場合は、以下の内容が変更になることがあります。また、以下は一般的な記載に過ぎませんので、課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認ください。

< 個人の受益者に対する課税 >

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、配当所得として課税され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315% および地方税5%）の税率による源泉徴収が行われます。申告不要制度の適用がありますが、総合課税または申告分離課税を選択することも可能です。いずれの場合も配当控除の適用はありません。申告分離課税を選択した場合の税率は、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）となります。収益分配金のうち課税対象となるのは普通分配金のみであり、元本払戻金（特別分配金）（ 1 ）は課税されません。

2037年12月31日までの間、復興特別所得税（所得税15%×2.1%）が付加されます。

解約時および償還時の差益（解約時および償還時の価額から取得費（申込手数料（税込）を含む）を控除した差額）は、その全額が譲渡所得等の金額とみなされ課税対象となります。譲渡所得等については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます（特定口座（源泉徴収選択口座）での取扱いも可能です。）。

普通分配金（申告分離課税を選択したものに限り、）ならびに解約時および償還時の損益については、確定申告により、上場株式等（特定公社債および公募公社債投信を含みます。）の利子所得および配当所得（申告分離課税を選択したものに限り、）ならびに譲渡所得等との間で損益通算を行うことができます。

少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。

ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした商品を購入する等、一定の条件に該当する方が対象となります。

当ファンドは、「NISA」の「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記とは異なる場合があります。

< 法人の受益者に対する課税 >

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の「各受益者の個別元本」（ 2 ）超過額については、15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）の税率による源泉徴収が行われます。地方税の源泉徴収はありません。収益分配金のうち課税対象となるのは普通分配金のみであり、元本払戻金（特別分配金）（ 1 ）は課税されません。

なお、益金不算入制度の適用はありません。

- （ 1 ）「元本払戻金（特別分配金）」とは、収益分配金落ち後の基準価額が各受益者の個別元本を下回る場合、収益分配金のうち当該下回る部分に相当する額をさし、元本の一部払戻しに相当するものです。この場合、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。
- （ 2 ）「各受益者の個別元本」とは、原則として各受益者の信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額は含まれません。）をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均され、元本払戻金（特別分配金）が支払われた際に調整されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合や、同一販売会社であっても複数の支店等で同一ファンドを取得する場合等は、個別元本の算出方法が異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

* 上記は、2024年3月末現在のものですので、税法が改正された場合等には、内容等が変更される場合があります。

(参考情報) ファンドの総経費率

直近の運用報告書作成対象期間(以下「当期間」といいます。)(2023年9月26日~2024年3月25日)におけるファンドの総経費率は以下の通りです。

総経費率(①+②)	①運用管理費用の比率	②その他費用の比率
0.57%	0.56%	0.01%

(比率は年率、表示桁数未満を四捨五入)

※当期間の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、購入時手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。消費税等のかかるものは消費税等を含む。)を当期間の平均受益権口数に当期間の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した値です。

※入手し得る情報において計算に含まれていない費用はありません。

※これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

※詳細につきましては、当期間の運用報告書(全体版)をご覧ください。

5【運用状況】

以下は2024年3月29日現在の運用状況です。

また、投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(1)【投資状況】

資産の種類	地域	時価合計（円）	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	3,609,728,644	100.00
コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）		230,929	0.00
合計（純資産総額）		3,609,497,715	100.00

（ご参考：親投資信託の投資状況）

当ファンドが主要投資対象とする親投資信託の投資状況は以下の通りです。

東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド

資産の種類	地域	時価合計（円）	投資比率（％）
国債証券	日本	27,678,026,000	7.83
地方債証券	日本	63,068,242,331	17.84
特殊債券	日本	12,924,888,000	3.65
社債券	日本	245,769,616,870	69.55
コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）		3,912,469,342	1.10
合計（純資産総額）		353,353,242,543	100.00

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

a. 主要銘柄の明細

順位	銘柄名	地域	種類	口数	帳簿価額		評価額		投資比率（％）
					単価(円)	金額(円)	単価(円)	金額(円)	
1	東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド	日本	親投資信託受益証券	3,062,725,814	1.1768	3,604,216,887	1.1786	3,609,728,644	100.00

b. 投資有価証券の種類

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	100.00
合計	100.00

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(ご参考:親投資信託の投資資産)

投資有価証券の主要銘柄

a.主要銘柄の明細

東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド

順位	銘柄名	地域	種類	利率	償還期限	額面	帳簿価額		評価額		投資比率(%)
							単価(円)	金額(円)	単価(円)	金額(円)	
1	第28回株式会社みずほフィナンシャルグループ無担保社債(劣後)	日本	社債券	1.412	2033/07/13	1,300,000,000	97.48	1,267,240,000	98.94	1,286,337,000	0.36
2	第27回利付国債(物価連動・10年)	日本	国債証券	0.005	2032/03/10	1,000,000,000	105.85	1,113,542,000	106.70	1,135,288,000	0.32
3	第24回麒麟ホールディングス株式会社無担保社債	日本	社債券	1.318	2033/10/26	1,000,000,000	100.00	1,000,000,000	102.18	1,021,870,000	0.28
4	第30回NTTファイナンス株式会社無担保社債	日本	社債券	1.213	2033/09/20	1,000,000,000	100.00	1,000,000,000	101.87	1,018,780,000	0.28
5	第454回中国電力株式会社社債	日本	社債券	1.340	2033/10/25	1,000,000,000	100.00	1,000,000,000	101.85	1,018,510,000	0.28
6	第83回三菱商事株式会社無担保社債	日本	社債券	1.054	2034/03/21	1,000,000,000	100.00	1,000,000,000	100.42	1,004,280,000	0.28
7	第12回株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	日本	社債券	0.521	2025/06/09	1,000,000,000	100.05	1,000,510,000	99.98	999,880,000	0.28
8	第29回株式会社みずほフィナンシャルグループ無担保社債(劣後)	日本	社債券	1.015	2033/07/13	1,000,000,000	99.20	992,000,000	99.57	995,750,000	0.28
9	第15回株式会社デンソー無担保社債	日本	社債券	0.245	2027/06/18	1,000,000,000	99.33	993,390,000	99.33	993,330,000	0.28
10	第9回テルモ株式会社無担保社債	日本	社債券	0.255	2027/04/26	1,000,000,000	99.18	991,890,000	99.18	991,820,000	0.28
11	第3回大塚ホールディングス株式会社無担保社債	日本	社債券	0.375	2029/03/07	1,000,000,000	98.35	983,510,000	98.51	985,190,000	0.27
12	第14回株式会社ブリヂストン無担保社債	日本	社債券	0.375	2029/04/19	1,000,000,000	98.21	982,120,000	98.38	983,880,000	0.27
13	第16回三井住友トラスト・ホールディングス無担保社債(劣後)	日本	社債券	0.400	2031/12/22	1,000,000,000	98.08	980,850,000	98.28	982,880,000	0.27
14	第318回日本高速道路保有・債務返済機構債券	日本	社債券	1.419	2043/09/18	1,000,000,000	99.14	991,450,000	97.37	973,750,000	0.27
15	第33回株式会社三菱ケミカルホールディングス無担保社債	日本	社債券	0.280	2030/02/28	1,000,000,000	95.92	959,200,000	96.64	966,450,000	0.27
16	第16回武田薬品工業株式会社無担保社債	日本	社債券	0.400	2031/10/14	1,000,000,000	94.80	948,060,000	95.46	954,630,000	0.27

17	第53回京成電鉄株式会社無担保社債	日本	社債券	0.787	2039/03/08	1,000,000,000	89.10	891,090,000	89.99	899,930,000	0.25
18	第7回株式会社ファーストリテイリング無担保社債	日本	社債券	0.405	2028/06/06	900,000,000	99.04	891,387,000	99.26	893,394,000	0.25
19	第43回京浜急行電鉄株式会社無担保社債	日本	社債券	0.676	2038/07/12	1,000,000,000	88.53	885,370,000	88.96	889,630,000	0.25
20	第77回国際協力機構債券	日本	社債券	1.404	2043/06/19	900,000,000	99.15	892,359,000	97.48	877,356,000	0.24
21	第28回西日本旅客鉄道株式会社無担保社債	日本	社債券	2.111	2030/06/11	800,000,000	108.79	870,368,000	108.61	868,920,000	0.24
22	第548回関西電力株式会社社債	日本	社債券	0.574	2032/04/23	900,000,000	95.43	858,924,000	96.43	867,924,000	0.24
23	第52回東京瓦斯株式会社無担保社債	日本	社債券	0.486	2039/05/23	1,000,000,000	85.79	857,910,000	86.72	867,200,000	0.24
24	第22回政府保証民間都市開発債券	日本	特殊債券	0.245	2040/02/28	1,000,000,000	84.24	842,450,000	84.89	848,970,000	0.24
25	第12回株式会社りそな銀行無担保社債（劣後特約付）	日本	社債券	2.464	2027/03/15	800,000,000	104.80	838,408,000	103.94	831,544,000	0.23
26	第116回東武鉄道株式会社無担保社債	日本	社債券	0.783	2037/09/11	900,000,000	90.69	816,210,000	91.38	822,501,000	0.23
27	第4回株式会社三井住友フィナンシャルグループ（劣後）	日本	社債券	1.328	2030/05/29	800,000,000	99.78	798,248,000	100.23	801,904,000	0.22
28	第27回SBIホールディングス株式会社無担保社債	日本	社債券	0.800	2024/12/23	800,000,000	99.91	799,280,000	100.02	800,224,000	0.22
29	第4回株式会社群馬銀行無担保社債（劣後）	日本	社債券	0.480	2029/04/26	800,000,000	99.83	798,656,000	99.97	799,784,000	0.22
30	第11回イオンフィナンシャルサービス株式会社無担保社債	日本	社債券	0.300	2025/01/30	800,000,000	99.83	798,688,000	99.81	798,488,000	0.22

b. 投資有価証券の種類

東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド

種類	投資比率(%)
国債証券	7.83
地方債証券	17.84
特殊債券	3.65
社債券	69.55
合計	98.89

投資不動産物件

東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド
該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド
該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

期	年月日	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり 純資産額(円) (分配落)	1口当たり 純資産額(円) (分配付)
第9計算期間末	(2014年 9月24日)	2,581	2,599	1.0045	1.0115
第10計算期間末	(2015年 3月23日)	4,857	4,924	1.0115	1.0255
第11計算期間末	(2015年 9月24日)	5,553	5,597	1.0020	1.0100
第12計算期間末	(2016年 3月23日)	5,157	5,355	1.0108	1.0498
第13計算期間末	(2016年 9月23日)	6,590	6,590	1.0045	1.0045
第14計算期間末	(2017年 3月23日)	7,118	7,118	0.9912	0.9912
第15計算期間末	(2017年 9月25日)	6,209	6,209	0.9962	0.9962
第16計算期間末	(2018年 3月23日)	4,825	4,825	0.9986	0.9986
第17計算期間末	(2018年 9月25日)	4,275	4,275	0.9862	0.9862
第18計算期間末	(2019年 3月25日)	4,261	4,286	1.0026	1.0086
第19計算期間末	(2019年 9月24日)	3,922	3,965	1.0028	1.0138
第20計算期間末	(2020年 3月23日)	6,392	6,392	0.9809	0.9809
第21計算期間末	(2020年 9月23日)	6,402	6,402	0.9828	0.9828
第22計算期間末	(2021年 3月23日)	6,038	6,038	0.9806	0.9806
第23計算期間末	(2021年 9月24日)	5,557	5,557	0.9845	0.9845
第24計算期間末	(2022年 3月23日)	5,109	5,109	0.9659	0.9659
第25計算期間末	(2022年 9月26日)	4,709	4,709	0.9483	0.9483
第26計算期間末	(2023年 3月23日)	4,357	4,357	0.9405	0.9405
第27計算期間末	(2023年 9月25日)	4,054	4,054	0.9224	0.9224
第28計算期間末	(2024年 3月25日)	3,613	3,613	0.9266	0.9266
2023年 3月末日		4,353		0.9406	
4月末日		4,317		0.9425	
5月末日		4,274		0.9427	
6月末日		4,253		0.9464	
7月末日		4,171		0.9328	
8月末日		4,120		0.9272	
9月末日		4,025		0.9192	
10月末日		3,882		0.9033	
11月末日		3,918		0.9235	
12月末日		3,846		0.9288	
2024年 1月末日		3,743		0.9237	
2月末日		3,651		0.9273	
3月末日		3,609		0.9278	

【分配の推移】

期	計算期間	1口当たりの分配金（円）
第9計算期間	2014年 3月25日～2014年 9月24日	0.0070
第10計算期間	2014年 9月25日～2015年 3月23日	0.0140
第11計算期間	2015年 3月24日～2015年 9月24日	0.0080
第12計算期間	2015年 9月25日～2016年 3月23日	0.0390
第13計算期間	2016年 3月24日～2016年 9月23日	0.0000
第14計算期間	2016年 9月24日～2017年 3月23日	0.0000
第15計算期間	2017年 3月24日～2017年 9月25日	0.0000
第16計算期間	2017年 9月26日～2018年 3月23日	0.0000
第17計算期間	2018年 3月24日～2018年 9月25日	0.0000
第18計算期間	2018年 9月26日～2019年 3月25日	0.0060
第19計算期間	2019年 3月26日～2019年 9月24日	0.0110
第20計算期間	2019年 9月25日～2020年 3月23日	0.0000
第21計算期間	2020年 3月24日～2020年 9月23日	0.0000
第22計算期間	2020年 9月24日～2021年 3月23日	0.0000
第23計算期間	2021年 3月24日～2021年 9月24日	0.0000
第24計算期間	2021年 9月25日～2022年 3月23日	0.0000
第25計算期間	2022年 3月24日～2022年 9月26日	0.0000
第26計算期間	2022年 9月27日～2023年 3月23日	0.0000
第27計算期間	2023年 3月24日～2023年 9月25日	0.0000
第28計算期間	2023年 9月26日～2024年 3月25日	0.0000

【収益率の推移】

期	計算期間	収益率（％）（分配付）
第9計算期間	2014年 3月25日～2014年 9月24日	1.0
第10計算期間	2014年 9月25日～2015年 3月23日	2.1
第11計算期間	2015年 3月24日～2015年 9月24日	0.1
第12計算期間	2015年 9月25日～2016年 3月23日	4.8
第13計算期間	2016年 3月24日～2016年 9月23日	0.6
第14計算期間	2016年 9月24日～2017年 3月23日	1.3
第15計算期間	2017年 3月24日～2017年 9月25日	0.5
第16計算期間	2017年 9月26日～2018年 3月23日	0.2
第17計算期間	2018年 3月24日～2018年 9月25日	1.2
第18計算期間	2018年 9月26日～2019年 3月25日	2.3
第19計算期間	2019年 3月26日～2019年 9月24日	1.1
第20計算期間	2019年 9月25日～2020年 3月23日	2.2
第21計算期間	2020年 3月24日～2020年 9月23日	0.2
第22計算期間	2020年 9月24日～2021年 3月23日	0.2
第23計算期間	2021年 3月24日～2021年 9月24日	0.4
第24計算期間	2021年 9月25日～2022年 3月23日	1.9
第25計算期間	2022年 3月24日～2022年 9月26日	1.8
第26計算期間	2022年 9月27日～2023年 3月23日	0.8
第27計算期間	2023年 3月24日～2023年 9月25日	1.9

第28計算期間	2023年 9月26日 ~ 2024年 3月25日	0.5
---------	---------------------------	-----

(4) 【設定及び解約の実績】

期	計算期間	設定口数(口)	解約口数(口)	発行済み口数(口)
第9計算期間	2014年 3月25日 ~ 2014年 9月24日	1,491,074,746	266,920,155	2,570,188,282
第10計算期間	2014年 9月25日 ~ 2015年 3月23日	2,763,225,242	530,827,143	4,802,586,381
第11計算期間	2015年 3月24日 ~ 2015年 9月24日	1,620,275,916	880,691,410	5,542,170,887
第12計算期間	2015年 9月25日 ~ 2016年 3月23日	1,166,710,905	1,606,875,003	5,102,006,789
第13計算期間	2016年 3月24日 ~ 2016年 9月23日	2,754,175,754	1,294,930,373	6,561,252,170
第14計算期間	2016年 9月24日 ~ 2017年 3月23日	1,709,501,396	1,089,115,150	7,181,638,416
第15計算期間	2017年 3月24日 ~ 2017年 9月25日	552,318,060	1,501,156,939	6,232,799,537
第16計算期間	2017年 9月26日 ~ 2018年 3月23日	362,414,735	1,763,011,862	4,832,202,410
第17計算期間	2018年 3月24日 ~ 2018年 9月25日	333,347,396	830,421,753	4,335,128,053
第18計算期間	2018年 9月26日 ~ 2019年 3月25日	510,186,412	594,763,733	4,250,550,732
第19計算期間	2019年 3月26日 ~ 2019年 9月24日	565,048,163	903,934,779	3,911,664,116
第20計算期間	2019年 9月25日 ~ 2020年 3月23日	3,161,796,849	556,853,173	6,516,607,792
第21計算期間	2020年 3月24日 ~ 2020年 9月23日	386,266,213	388,159,942	6,514,714,063
第22計算期間	2020年 9月24日 ~ 2021年 3月23日	382,943,636	739,966,404	6,157,691,295
第23計算期間	2021年 3月24日 ~ 2021年 9月24日	154,715,102	666,921,853	5,645,484,544
第24計算期間	2021年 9月25日 ~ 2022年 3月23日	115,344,273	470,607,320	5,290,221,497
第25計算期間	2022年 3月24日 ~ 2022年 9月26日	120,912,623	444,128,973	4,967,005,147
第26計算期間	2022年 9月27日 ~ 2023年 3月23日	84,517,397	418,642,149	4,632,880,395
第27計算期間	2023年 3月24日 ~ 2023年 9月25日	52,319,432	289,436,607	4,395,763,220
第28計算期間	2023年 9月26日 ~ 2024年 3月25日	46,276,521	542,602,188	3,899,437,553

< 参考情報 >

基準日：2024年3月29日

基準価額・純資産の推移



※基準価額は信託報酬控除後のものです。後述の信託報酬に関する記載をご覧ください。
※基準価額は1万口当たりで表示しています。 ※設定日は2010年5月28日です。

分配の推移

(1万口当たり、税引前)

決算期	決算日	分配金
第24期	2022/03/23	0円
第25期	2022/09/26	0円
第26期	2023/03/23	0円
第27期	2023/09/25	0円
第28期	2024/03/25	0円
設定来累計		1,630円

※分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社
が決定します。分配対象額が少額の場合等には、
分配を行わないことがあります。

主要な資産の状況

ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行っており、マザーファンドの資産の状況を記載しています。

● 債券種別構成

種別	比率
国債	7.8%
うち物価連動国債	0.3%
地方債	17.8%
政府保証債	3.7%
金融債	-
事業債	69.4%
うち劣後債	6.1%
円建外債	-
MBS・ABS	0.1%
短期金融資産等	1.1%
合計	100.0%

※短期金融資産等は、組入有価証券以外のもの
です。

※比率は、純資産総額に占める割合です。

● 保有債券の属性情報

残存期間	9.77年
修正デュレーション	9.21
クーポン	0.77%
最終利回り（複利）	1.06%
直接利回り	0.78%
平均格付	AA-

※各保有債券の数値を加重平均した値です。

※保有債券の時価総額を基に計算しています。

※途中償還等を考慮して計算しています。

※修正デュレーションとは、金利がある一定割合で変動した場合、債券価格がどの程度変化
するかを示す指標であり、その値が大きいほど、金利変動に対する債券価格の変動が大きくな
ります。

※格付は、Moody's社、S&P社、R&I社、JCR社、Fitch社のうち、上位のものを使用しています。

※平均格付は、格付毎に点数化し、加重平均した結果を四捨五入して表示しており、ファンドの
格付ではありません。また、保有債券のうち、格付が取得できない場合は、除外して計算して
います。

次ページへ続く

- ・最新の運用実績は、委託会社のホームページでご確認いただけます。
- ・ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。

基準日:2024年3月29日

● 残存年限別構成

残存年限	比率
5年未満	22.9%
5年以上10年未満	28.5%
10年以上15年未満	26.7%
15年以上20年未満	20.8%
20年以上	-

※途中償還等を考慮して計算しています。

※比率は、純資産総額に占める割合です。

● 格付別構成

格付	比率
AAA格	14.6%
AA格	45.5%
A格	30.3%
BBB格	1.1%
その他	8.5%

※比率は、保有債券の時価総額に占める割合です。

※格付は、Moody's社、S&P社、R&I社、JCR社、Fitch社のうち、上位のものを使用しており、+-等の符号は省略して表示しています。

※その他は、東京海上アセットマネジメントが投資適格相当とみなしている無格付の地方債等です。

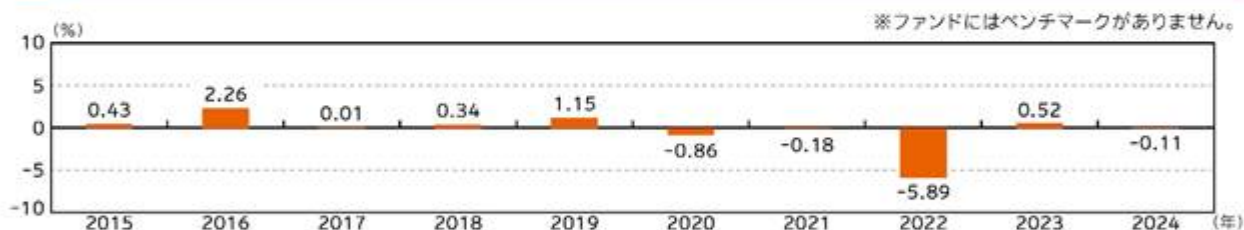
● 組入上位10銘柄

組入銘柄数:733銘柄

	銘柄	クーポン	償還日	比率
1	第28回株式会社みずほフィナンシャルグループ無担保社債(劣後)	1.412%	2033/07/13	0.4%
2	第27回利付国債(物価連動・10年)	0.005%	2032/03/10	0.3%
3	第24回キリンホールディングス株式会社無担保社債	1.318%	2033/10/26	0.3%
4	第30回N T Tファイナンス株式会社無担保社債	1.213%	2033/09/20	0.3%
5	第454回中国電力株式会社社債	1.340%	2033/10/25	0.3%
6	第83回三菱商事株式会社無担保社債	1.054%	2034/03/21	0.3%
7	第12回株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	0.521%	2025/06/09	0.3%
8	第29回株式会社みずほフィナンシャルグループ無担保社債(劣後)	1.015%	2033/07/13	0.3%
9	第15回株式会社デンソー無担保社債	0.245%	2027/06/18	0.3%
10	第9回デルモ株式会社無担保社債	0.255%	2027/04/26	0.3%

※比率は、純資産総額に占める割合です。

年間収益率の推移



※ファンドの収益率は、税引前分配金を再投資したものとして計算しています。

※当年は昨年末と基準日の騰落率です。

- ・最新の運用実績は、委託会社のホームページでご確認いただけます。
- ・ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

- a. 毎営業日にお申込みを受け付けます。
 b. 申込方法には、収益分配金の受取方法によって、以下の2種類のコースがあります。

分配金受取りコース	分配金を受け取るコースです。
分配金再投資コース	分配金が税引き後、自動的に無手数料で再投資されるコースです。

- c. 販売会社やお申込みのコース等によって申込単位は異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。なお、分配金再投資コースにおける収益分配金の再投資に際しては、1口単位で取得することができます。
- d. 取得申込の受付は、原則として午後3時までとします。受付時間を過ぎてからのお申込みについては翌営業日受付の取扱いとなります。
- e. 受益権の取得申込価額は以下の通りです。
 取得申込受付日の基準価額
 基準価額は原則として委託会社の毎営業日に算出され、販売会社または委託会社サービスデスクにお問い合わせることにより知ることができます。
 委託会社のお問い合わせ先（委託会社サービスデスク）
 東京海上アセットマネジメント サービスデスク
 0120-712-016（土日祝日・年末年始を除く9時～17時）
- f. 申込手数料は、発行価格に1.1%（税抜1%）の率を乗じて得た額を上限として販売会社が個別に定める額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- g. 上記にかかわらず、取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情が発生し、委託会社が追加設定を制限する措置を取った場合には、販売会社は、受益権の取得申込の受付を中止すること、および既に受け付けた取得申込の受付を取り消すことができます。
- h. 取得申込者は販売会社に、取得申込と同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込の代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関等への通知を行うものとし、振替機関等は、委託会社から振替機関等への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。委託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関等の定める方法により、振替機関等へ当該受益権にかかる信託を設定した旨の通知を行います。
- i. 定時定額購入サービスを選択した取得申込者は、販売会社との間で定時定額購入サービスに関する取り決めを行います。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

2【換金（解約）手続等】

- a. 受益者は、自己に帰属する受益権につき、一部解約の実行請求（解約請求）の方法によりご換金の請求を行うことができます。
- b. ご換金のお申込みは販売会社で受け付けます。なお、販売会社の買取りによるご換金の請求については、販売会社にお問い合わせください。
- c. 解約請求による換金のお申込みは、毎営業日に行うことができます。
- d. 解約単位は、販売会社やお申込みのコース等によって異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- e. 解約請求のお申込みの受付は、原則として午後3時までとします。受付時間を過ぎてからのお申込みは翌営業日受付としてお取り扱いします。
- f. 解約時の価額（解約価額）は、解約請求受付日の基準価額とします。
信託財産留保額はありません。
- g. 解約価額は、原則として委託会社の毎営業日に算出され、販売会社または委託会社サービスデスクにお問い合わせることにより知ることができます。
- h. 解約にかかる手数料はありません。
- i. 解約代金は、原則として解約請求受付日から起算して5営業日目から、お支払いします。
- j. 委託会社は、取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止することおよび既に受け付けた解約請求の受付を取り消すことができます。解約請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日を解約請求受付日とする解約請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日にその請求を受け付けたものとして取扱います。
- k. 信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口解約には制限を設ける場合があります。
- l. 受益者が解約の請求をするときは、振替受益権をもって行うものとし、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかる信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請が行われ、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

- a. 基準価額は、受益権 1 口当たりの純資産価額（純資産総額を計算日における受益権総口数で除した金額）をいいます。ただし、便宜上 1 万口当たりに換算した価額で表示されることがあります。
- b. 純資産総額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額をいいます。

< 主要投資対象資産の評価方法 >

対象	評価方法
マザーファンド 受益証券	原則として、当ファンドの基準価額計算日の基準価額で評価します。
公社債等	原則として、以下のいずれかの価額で評価します。 a. 日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値） b. 金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（売気配相場を除く） c. 価格情報会社の提供する価額

- c. 基準価額は、原則として委託会社の毎営業日に算出され、販売会社または委託会社サービスデスクに問い合わせることにより知ることができます。

(2)【保管】

該当事項はありません。

(3)【信託期間】

原則として、2010年5月28日から無期限とします。ただし、後記「(5)その他 信託の終了（繰上償還）」に該当する場合には、信託を終了させることがあります。

(4)【計算期間】

原則として、毎年3月24日から9月23日までおよび9月24日から翌年3月23日までとします。ただし、各計算期間の末日が休業日のときはその翌営業日（ ）を計算期間の末日とし、その翌日より次の計算期間が開始するものとします。

（ ）法令により、これと異なる日を計算期間の末日と定めている場合には、法令にしたがいます。

(5)【その他】

信託の終了（繰上償還）

- a. 委託会社は、信託期間中において、信託契約の一部を解約することにより受益権の総口数が10億口を下ることとなったとき、信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- b. 委託会社は、上記a.の事項について、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、信託契約にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- c. 上記b.の書面決議において、受益者（委託会社および信託の信託財産に信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下c.において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- d. 上記b.の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- e. 上記b.からd.までの規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、信託契約にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記b.からd.までの手続きを行うことが困難な場合も同様とします。
- f. 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、信託契約を解約し、信託を終了させます。

- g. 上記f.の規定にかかわらず、監督官庁が信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、信託は、「信託約款の変更」b.の書面決議で否決された場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。
- h. 受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社はその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を申立てることができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、「信託約款の変更」の規定にしたがい、新受託会社を選任します。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託会社を解任することはできないものとしします。
- i. 委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社は信託契約を解約し、信託を終了させます。

信託約款の変更

- a. 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託約款を変更することまたは信託と他の信託との併合(投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。)を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、信託約款は「信託約款の変更」に定める以外の方法によって変更することができないものとしします。
- b. 委託会社は、上記a.の事項(上記a.の変更事項にあっては、その内容が重大なものに該当する場合に限り、上記a.の併合事項にあってはその併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下「重大な約款の変更等」といいます。)について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、信託約款にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。
- c. 上記b.の書面決議において、受益者(委託会社および信託の信託財産に信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下c.において同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- d. 上記b.の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- e. 書面決議の効力は、信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。
- f. 上記b.からe.までの規定は、委託会社が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、信託約款にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
- g. 上記a.からf.までの規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合であっても、当該併合にかかる一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

関係会社との契約の更改等

委託会社と販売会社との間の募集・販売等の取扱いに関する契約は、当事者の別段の意思表示がない限り、1年ごとに自動更新されます。募集・販売等の取扱いに関する契約は、当事者間の合意により変更することができます。

運用報告書

- a. 毎決算時および償還時に、委託会社が、期間中の運用経過のほか、信託財産の内容などを記載した交付運用報告書を作成します。交付運用報告書は、知れている受益者に対して、販売会社から、あらかじめお申し出いただいたご住所にお届けします。
- b. 委託会社は、運用報告書(全体版)を作成し、委託会社のホームページ(<https://www.tokiomarineam.co.jp/>)に掲載します。
- c. 上記b.の規定にかかわらず、受益者から運用報告書(全体版)の交付の請求があった場合は、交付します。

公告

委託会社が受益者に対してする公告は、原則として電子公告の方法により行い、委託会社のホームページ(<https://www.tokiomarineam.co.jp/>)に掲載します。

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

4【受益者の権利等】

当ファンドの受益者の有する主な権利は以下の通りです。なお、議決権、受益者集会に関する権利は有しません。

収益分配金の請求権

収益分配金は、毎計算期間終了後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日まで）から、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。）に、お支払いします。ただし、受益者が収益分配金について、上記に規定する支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託会社が受託会社より交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。なお、分配金再投資コースの収益分配金は、税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資されますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

償還金の請求権

償還金（信託終了時における信託財産の純資産総額を受益権総口数で除した金額をいいます。以下同じ。）は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日（償還日が休業日の場合には当該償還日の翌営業日）から起算して5営業日まで）から、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。）にお支払いします。ただし、受益者が償還金について、上記に規定する支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託会社が受託会社より交付を受けた金銭は委託会社に帰属します。

換金（解約）請求権

受益者は、自己に帰属する受益権について、一部解約の実行請求の方法により、換金を請求することができます。詳細は上記「2 換金（解約）手続等」をご参照ください。

買取請求権

一部解約の実行の請求を行ったときは、委託会社が信託契約の一部の解約をすることにより当該請求に応じ、当該受益権の公正な価格が当該受益者に一部解約金として支払われることとなる委託者指図型投資信託に該当するため、信託契約の解約または重大な約款の変更等を行う場合において、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権の買取請求の規定の適用を受けません。

第3【ファンドの経理状況】

- (1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- (2) 当ファンドの計算期間は、6ヵ月であるため、財務諸表は6ヵ月ごとに作成しております。
- (3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づいて、第28期計算期間(2023年9月26日から2024年3月25日まで)の財務諸表について、PwC Japan有限責任監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

【東京海上・円建て投資適格債券ファンド（年2回決算型）】

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第27期 [2023年 9月25日現在]	第28期 [2024年 3月25日現在]
資産の部		
流動資産		
親投資信託受益証券	4,054,481,014	3,613,025,475
未収入金	33,235,280	31,361,163
流動資産合計	4,087,716,294	3,644,386,638
資産合計	4,087,716,294	3,644,386,638
負債の部		
流動負債		
未払解約金	20,690,757	20,247,702
未払受託者報酬	473,379	419,384
未払委託者報酬	11,834,555	10,484,481
その他未払費用	236,589	209,596
流動負債合計	33,235,280	31,361,163
負債合計	33,235,280	31,361,163
純資産の部		
元本等		
元本	₁ 4,395,763,220	₁ 3,899,437,553
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	₂ 341,282,206	₂ 286,412,078
（分配準備積立金）	32,187,000	36,253,416
元本等合計	4,054,481,014	3,613,025,475
純資産合計	4,054,481,014	3,613,025,475
負債純資産合計	4,087,716,294	3,644,386,638

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第27期 自 2023年 3月24日 至 2023年 9月25日	第28期 自 2023年 9月26日 至 2024年 3月25日
営業収益		
有価証券売買等損益	68,182,094	27,818,553
営業収益合計	68,182,094	27,818,553
営業費用		
受託者報酬	473,379	419,384
委託者報酬	11,834,555	10,484,481
その他費用	236,589	209,596
営業費用合計	12,544,523	11,113,461
営業利益又は営業損失（ ）	80,726,617	16,705,092
経常利益又は経常損失（ ）	80,726,617	16,705,092
当期純利益又は当期純損失（ ）	80,726,617	16,705,092
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	1,133,307	401,136
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	275,621,546	341,282,206
剰余金増加額又は欠損金減少額	17,221,208	42,131,719
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	17,221,208	42,131,719
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
剰余金減少額又は欠損金増加額	3,288,558	3,565,547
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	3,288,558	3,565,547
分配金	1 -	1 -
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	341,282,206	286,412,078

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	第28期 自 2023年 9月26日 至 2024年 3月25日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	計算期間末日の取扱い 2023年9月23日及び2024年3月23日が休日のため、前計算期間末日を2023年9月25日とし、当計算期間末日を2024年3月25日としております。このため、当計算期間は182日となっております。

(重要な会計上の見積りに関する注記)

第27期 自 2023年 3月24日 至 2023年 9月25日	第28期 自 2023年 9月26日 至 2024年 3月25日
当計算期間の財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが、翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクを識別していないため、注記を省略しております。	同左

(貸借対照表に関する注記)

区 分	第27期 [2023年 9月25日現在]	第28期 [2024年 3月25日現在]
1. 1 期首元本額	4,632,880,395円	4,395,763,220円
期中追加設定元本額	52,319,432円	46,276,521円
期中一部解約元本額	289,436,607円	542,602,188円
2. 1 計算期間末日における受益権の総数	4,395,763,220口	3,899,437,553口
3. 2 元本の欠損	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は341,282,206円であります。	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は286,412,078円であります。

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第27期 自 2023年 3月24日 至 2023年 9月25日	第28期 自 2023年 9月26日 至 2024年 3月25日
1 分配金の計算過程 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(2,650,025円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(51,585,227円)及び分配準備積立金(29,536,975円)より、分配対象額は83,772,227円(1万口当たり190.56円)ですが、分配を行っておりません。	1 分配金の計算過程 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(8,017,815円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(0円)、投資信託約款に規定される収益調整金(46,095,817円)及び分配準備積立金(28,235,601円)より、分配対象額は82,349,233円(1万口当たり211.17円)ですが、分配を行っておりません。

（金融商品に関する注記）

・金融商品の状況に関する事項

区 分	第27期 自 2023年 3月24日 至 2023年 9月25日	第28期 自 2023年 9月26日 至 2024年 3月25日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行なっております。	同左
2. 金融商品の内容及びそのリスク	当ファンドが運用する主な金融商品は「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載の有価証券であります。当該有価証券には、性質に応じてそれぞれ価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク等があります。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社のリスク管理体制は、担当運用部が自主管理を行うと同時に、担当運用部とは独立した部門において厳格に実施される体制としています。 法令等の遵守状況についてはコンプライアンス部門が、運用リスクの各項目および運用ガイドラインの遵守状況については運用リスク管理部門が、それぞれ適切な運用が行われるよう監視し、担当運用部へのフィードバックおよび所管の委員会への報告・審議を行っています。 これらの内容については、社長をはじめとする関係役員に随時報告が行われるとともに、内部監査部門がこれらの業務全般にわたる運営体制の監査を行うことで、より実効性の高いリスク管理体制を構築しております。	同左

・金融商品の時価等に関する事項

区 分	第27期 [2023年 9月25日現在]	第28期 [2024年 3月25日現在]
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	(1)有価証券 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。	(1)有価証券 同左

	(2)デリバティブ取引 該当事項はありません。	(2)デリバティブ取引 同左
	(3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。	(3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

第27期（自 2023年3月24日 至 2023年9月25日）

売買目的有価証券

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	47,548,588円
合計	47,548,588円

(注)時価の算定方法については、重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。

第28期（自 2023年9月26日 至 2024年3月25日）

売買目的有価証券

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	39,909,339円
合計	39,909,339円

(注)時価の算定方法については、重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。

(1口当たり情報に関する注記)

第27期 [2023年 9月25日現在]		第28期 [2024年 3月25日現在]	
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.9224円 9,224円)	1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.9266円 9,266円)

(4)【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

(単位：円)

種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備 考
親投資信託 受益証券	東京海上・円建て投資適格債券 マザーファンド	3,069,951,122	3,613,025,475	
親投資信託受益証券 合計		3,069,951,122	3,613,025,475	
合計		3,069,951,122	3,613,025,475	

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

(ご参考)

当ファンドは、「東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド」を主要な投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同ファンドの受益証券です。なお、同ファンドの状況は次のとおりです。

なお、以下に記載した情報は監査の対象ではありません。

「東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド」の状況

(1) 貸借対照表

区 分	注記 番号	[2023年 9月25日現在]	[2024年 3月25日現在]
		金額(円)	金額(円)
資産の部			
流動資産			
コール・ローン		5,125,765,232	5,743,882,875
国債証券		26,917,470,000	27,634,594,000
地方債証券		80,628,651,219	63,429,723,442
特殊債券		16,547,179,000	12,907,161,000
社債券		288,299,620,750	246,306,370,000
未収利息		680,500,014	619,689,743
前払費用		1,540,000	
流動資産合計		418,200,726,215	356,641,421,060
資産合計		418,200,726,215	356,641,421,060
負債の部			
流動負債			
未払解約金		2,175,501,866	2,331,048,017
未払利息		8,209	
流動負債合計		2,175,510,075	2,331,048,017
負債合計		2,175,510,075	2,331,048,017
純資産の部			
元本等			
元本	1	356,115,305,023	301,057,046,544
剰余金			
剰余金又は欠損金()		59,909,911,117	53,253,326,499
元本等合計		416,025,216,140	354,310,373,043
純資産合計		416,025,216,140	354,310,373,043
負債純資産合計		418,200,726,215	356,641,421,060

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	自 2023年 9月26日 至 2024年 3月25日
有価証券の評価基準及び評価方法	国債証券、地方債証券、特殊債券及び社債券 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時 価評価にあたっては、金融商品取引業者、銀行等の提示す る価額(但し、売気配相場は使用しない)、価格情報会社 の提供する価額又は日本証券業協会発表の売買参考統計値 (平均値)等で評価しております。

(重要な会計上の見積りに関する注記)

自 2023年 3月24日 至 2023年 9月25日	自 2023年 9月26日 至 2024年 3月25日
本書における開示対象ファンドの当計算期間の財 務諸表の作成にあたって行った会計上の見積り が、本書における開示対象ファンドの翌計算期間 の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクを識別し ていないため、注記を省略しております。	同左

(貸借対照表に関する注記)

区 分	[2023年 9月25日現在]	[2024年 3月25日現在]
1. 1 本書における開示対象ファンドの期首にお ける当該親投資信託の元本額	391,991,833,640円	356,115,305,023円
同期中における追加設定元本額	12,904,643,512円	6,823,590,036円
同期中における一部解約元本額	48,781,172,129円	61,881,848,515円
同期末における元本額	356,115,305,023円	301,057,046,544円
元本の内訳*		
東京海上・円建て投資適格債券ファンド (毎月決算型)	16,135,029,297円	14,249,381,164円
東京海上・円建て投資適格債券ファンド (年2回決算型)	3,470,707,939円	3,069,951,122円
東京海上・円資産バランスファンド (毎月決算型)	229,535,018,902円	193,515,829,916円
東京海上・円資産バランスファンド (年1回決算型)	106,810,736,970円	90,058,072,427円
TMA債券バランスファンド <適格機関投資家限定>	163,811,915円	163,811,915円
計	356,115,305,023円	301,057,046,544円
2. 1 本書における開示対象ファンドの計算期間 末日における当該親投資信託の受益権の総 数	356,115,305,023口	301,057,046,544口

(注) * は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

・金融商品の状況に関する事項

区 分	自 2023年 3月24日 至 2023年 9月25日	自 2023年 9月26日 至 2024年 3月25日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行なっております。	同左
2. 金融商品の内容及びそのリスク	当ファンドが運用する主な金融商品は「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載の有価証券であります。当該有価証券には、性質に応じてそれぞれ価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク等があります。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社のリスク管理体制は、担当運用部が自主管理を行うと同時に、担当運用部とは独立した部門において厳格に実施される体制としています。 法令等の遵守状況についてはコンプライアンス部門が、運用リスクの各項目および運用ガイドラインの遵守状況については運用リスク管理部門が、それぞれ適切な運用が行われるよう監視し、担当運用部へのフィードバックおよび所管の委員会への報告・審議を行っています。 これらの内容については、社長をはじめとする関係役員に随時報告が行われるとともに、内部監査部門がこれらの業務全般にわたる運営体制の監査を行うことで、より実効性の高いリスク管理体制を構築しております。	同左

金融商品の時価等に関する事項

区 分	[2023年 9月25日現在]	[2024年 3月25日現在]
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	(1)有価証券 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。	(1)有価証券 同左 (2)デリバティブ取引 同左 (3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（有価証券に関する注記）

（自 2023年3月24日 至 2023年9月25日）

売買目的有価証券

種 類	当期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	1,366,188,600円
地方債証券	3,836,358,789円
特殊債券	837,589,000円
社債券	6,351,711,610円
合計	12,391,847,999円

(注1)時価の算定方法については、重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。

(注2)「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から本書における開示対象ファンドの期末までの期間(2022年9月27日から2023年9月25日まで)を指しております。

（自 2023年9月26日 至 2024年3月25日）

売買目的有価証券

種 類	当期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	34,491,000円
地方債証券	205,099,536円
特殊債券	101,227,000円
社債券	807,381,750円
合計	1,148,199,286円

(注1)時価の算定方法については、重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。

(注2)「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から本書における開示対象ファンドの期末までの期間(2023年9月26日から2024年3月25日まで)を指しております。

（1口当たり情報に関する注記）

[2023年 9月25日現在]		[2024年 3月25日現在]	
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.1682円 11,682円)	1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.1769円 11,769円)

（3）附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

（単位：円）

種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備 考
国債証券	第2 2 回利付国債（30年）	500,000,000	590,045,000	
	第2 3 回利付国債（30年）	500,000,000	590,450,000	
	第2 4 回利付国債（30年）	500,000,000	590,800,000	
	第2 5 回利付国債（30年）	500,000,000	579,325,000	
	第2 6 回利付国債（30年）	500,000,000	585,145,000	
	第2 7 回利付国債（30年）	500,000,000	591,595,000	
	第2 8 回利付国債（30年）	500,000,000	591,645,000	
	第2 9 回利付国債（30年）	500,000,000	585,245,000	
	第3 0 回利付国債（30年）	500,000,000	578,295,000	
	第3 1 回利付国債（30年）	500,000,000	570,515,000	
	第3 2 回利付国債（30年）	500,000,000	576,855,000	
	第3 3 回利付国債（30年）	500,000,000	553,530,000	
	第3 4 回利付国債（30年）	500,000,000	567,335,000	
	第3 5 回利付国債（30年）	500,000,000	550,650,000	
	第3 6 回利付国債（30年）	500,000,000	550,210,000	
	第3 7 回利付国債（30年）	500,000,000	541,085,000	
	第3 8 回利付国債（30年）	500,000,000	530,790,000	
	第3 9 回利付国債（30年）	500,000,000	538,290,000	
	第1 5 6 回利付国債（20年）	700,000,000	659,288,000	
	第1 5 7 回利付国債（20年）	700,000,000	640,696,000	
	第1 5 8 回利付国債（20年）	700,000,000	662,613,000	
	第1 5 9 回利付国債（20年）	700,000,000	668,738,000	
	第1 6 0 回利付国債（20年）	700,000,000	674,702,000	
	第1 6 1 回利付国債（20年）	700,000,000	663,775,000	
	第1 6 2 回利付国債（20年）	700,000,000	661,220,000	
	第1 6 3 回利付国債（20年）	700,000,000	658,623,000	
	第1 6 4 回利付国債（20年）	700,000,000	647,136,000	
	第1 6 5 回利付国債（20年）	700,000,000	644,336,000	
	第1 6 6 回利付国債（20年）	700,000,000	660,471,000	
	第1 6 7 回利付国債（20年）	700,000,000	639,037,000	
	第1 6 8 回利付国債（20年）	700,000,000	626,885,000	
	第1 6 9 回利付国債（20年）	700,000,000	614,103,000	
	第1 7 0 回利付国債（20年）	700,000,000	610,932,000	
	第1 7 1 回利付国債（20年）	700,000,000	607,754,000	
	第1 7 2 回利付国債（20年）	700,000,000	614,999,000	
	第1 7 3 回利付国債（20年）	700,000,000	611,849,000	

	第180回利付国債(20年)	700,000,000	636,454,000	
	第181回利付国債(20年)	700,000,000	645,400,000	
	第182回利付国債(20年)	700,000,000	666,218,000	
	第183回利付国債(20年)	700,000,000	698,439,000	
	第184回利付国債(20年)	700,000,000	662,046,000	
	第185回利付国債(20年)	700,000,000	659,673,000	
	第186回利付国債(20年)	700,000,000	704,242,000	
	第27回利付国債(物価連動・10年)	1,000,000,000	1,133,160,000	
国債証券	合計	27,500,000,000	27,634,594,000	
地方債証券	第6回東京都公募公債(30年)	100,000,000	117,779,000	
	第7回東京都公募公債(30年)	100,000,000	116,869,000	
	第35回東京都公募公債(20年)	700,000,000	637,917,000	
	第37回東京都公募公債(20年)	800,000,000	693,280,000	
	平成30年度第9回北海道公募公債(20年)	500,000,000	461,440,000	
	令和元年度第4回北海道公募公債(20年)	700,000,000	606,046,000	
	令和元年度第9回北海道公募公債(20年)	200,000,000	168,814,000	
	第5回3号宮城県公募公債(20年)	320,000,000	301,881,600	
	第37回神奈川県公募公債(20年)	200,000,000	182,382,000	
	第40回神奈川県公募公債(20年)	800,000,000	680,336,000	
	第42回神奈川県公募公債(20年)	500,000,000	432,575,000	
	第52回神奈川県公募公債(20年)	600,000,000	562,644,000	
	第17回大阪府公募公債(20年)	700,000,000	647,976,000	
	第24回大阪府公募公債(20年)	300,000,000	292,623,000	
	平成26年度第5回京都府公募公債(20年)	600,000,000	633,552,000	
	平成30年度第5回京都府公募公債(20年)	600,000,000	555,672,000	
	令和元年度第5回京都府公募公債(20年)	400,000,000	338,860,000	
	令和5年度第4回京都府公募公債(20年)	300,000,000	289,560,000	
	第22回兵庫県公募公債(20年)	500,000,000	524,940,000	
	第37回兵庫県公募公債(20年)	500,000,000	446,655,000	
	第38回兵庫県公募公債(20年)	300,000,000	261,351,000	
	第45回兵庫県公募公債(20年)	800,000,000	742,336,000	

第2回静岡県公募公債(30年)	300,000,000	351,723,000	
第18回静岡県公募公債(20年)	600,000,000	634,722,000	
第19回静岡県公募公債(20年)	300,000,000	309,144,000	
第26回静岡県公募公債(20年)	600,000,000	558,972,000	
第28回静岡県公募公債(20年)	700,000,000	602,553,000	
第35回静岡県公募公債(20年)	300,000,000	281,322,000	
平成27年度第3回愛知県公募公債(20年)	700,000,000	711,998,000	
平成30年度第2回愛知県公募公債(20年)	100,000,000	91,545,000	
平成30年度第12回愛知県公募公債(20年)	300,000,000	278,592,000	
令和元年度第5回愛知県公募公債(20年)	400,000,000	344,580,000	
令和5年度第4回愛知県公募公債(20年)	600,000,000	556,782,000	
平成27年度第1回広島県公募公債(20年)	500,000,000	512,485,000	
平成31年度第1回広島県公募公債(20年)	700,000,000	618,429,000	
令和元年度第2回広島県公募公債(20年)	300,000,000	253,716,000	
令和2年度第1回広島県公募公債(20年)	800,000,000	680,864,000	
令和5年度第1回広島県公募公債(20年)	400,000,000	390,164,000	
第15回埼玉県公募公債(20年)	400,000,000	409,556,000	
第22回埼玉県公募公債(20年)	600,000,000	550,788,000	
第23回埼玉県公募公債(20年)	300,000,000	275,004,000	
第24回埼玉県公募公債(20年)	100,000,000	88,393,000	
第25回埼玉県公募公債(20年)	450,000,000	385,807,500	
令和元年度第2回福岡県公募公債(15年)	400,000,000	373,888,000	
平成26年度第2回福岡県公募公債(20年)	300,000,000	316,311,000	
平成26年度第4回福岡県公募公債(20年)	200,000,000	206,430,000	
令和元年度第1回福岡県公募公債(20年)	600,000,000	518,724,000	
令和5年度第1回福岡県公募公債(20年)	600,000,000	556,146,000	
令和5年度第2回福岡県公募公債(20年)	300,000,000	281,181,000	

第17回千葉県公募公債(20年)	600,000,000	629,700,000	
第24回千葉県公募公債(20年)	200,000,000	183,696,000	
第27回千葉県公募公債(20年)	800,000,000	680,888,000	
第33回千葉県公募公債(20年)	300,000,000	299,772,000	
平成30年度第1回新潟県公募公債	700,000,000	647,017,000	
令和元年度第1回新潟県公募公債	800,000,000	676,864,000	
令和2年度第1回新潟県公募公債	800,000,000	688,752,000	
令和元年度第2回茨城県公募公債	455,900,000	433,346,627	
第5回群馬県公募公債(20年)	600,000,000	638,340,000	
第6回群馬県公募公債(20年)	600,000,000	619,608,000	
第10回群馬県公募公債(20年)	500,000,000	434,730,000	
第11回群馬県公募公債(20年)	400,000,000	345,236,000	
第14回群馬県公募公債(20年)	500,000,000	463,960,000	
令和2年度第1回大分県公募公債	495,000,000	471,512,250	
令和元年度第2回長崎県公募公債	364,708,000	346,140,715	
平成30年度第2回島根県公募公債	700,000,000	648,459,000	
令和元年度第2回島根県公募公債	400,000,000	338,288,000	
令和2年度第2回島根県公募公債	800,000,000	691,232,000	
令和5年度第1回島根県公募公債	300,000,000	293,025,000	
令和5年度第3回奈良県公募公債	300,000,000	292,872,000	
第18回大阪市公募公債(20年)	700,000,000	723,429,000	
第19回大阪市公募公債(20年)	600,000,000	611,940,000	
第1回名古屋市公募公債(30年)	500,000,000	582,630,000	
第3回名古屋市公募公債(30年)	100,000,000	116,768,000	
第6回名古屋市公募公債(30年)	100,000,000	115,768,000	
第21回名古屋市公募公債(20年)	700,000,000	642,614,000	
第22回名古屋市公募公債(20年)	700,000,000	618,709,000	
第27回名古屋市公募公債(20年)	500,000,000	465,510,000	
第17回京都市公募公債(20年)	700,000,000	647,577,000	
第18回京都市公募公債(20年)	400,000,000	345,672,000	
平成26年度第3回神戸市公募公債(20年)	300,000,000	317,628,000	

平成30年度第6回神戸市公募公債(20年)	300,000,000	277,911,000	
令和元年度第6回神戸市公募公債(20年)	400,000,000	338,288,000	
第30回横浜市公募公債(20年)	550,000,000	575,839,000	
第31回横浜市公募公債(20年)	300,000,000	307,230,000	
第40回横浜市公募公債(20年)	700,000,000	642,929,000	
第48回横浜市公募公債(20年)	700,000,000	649,740,000	
平成30年度第8回札幌市公募公債(20年)	700,000,000	641,648,000	
令和2年度第5回札幌市公募公債(20年)	700,000,000	602,854,000	
令和5年度第2回札幌市公募公債(20年)	200,000,000	185,848,000	
第20回川崎市公募公債(20年)	200,000,000	203,952,000	
第27回川崎市公募公債(20年)	300,000,000	275,541,000	
第30回川崎市公募公債(20年)	600,000,000	510,252,000	
第33回川崎市公募公債(20年)	600,000,000	519,642,000	
第17回北九州市公募公債(20年)	600,000,000	638,376,000	
第18回北九州市公募公債(20年)	200,000,000	209,396,000	
第19回北九州市公募公債(20年)	600,000,000	622,380,000	
平成26年度第2回福岡市公募公債(20年)	600,000,000	635,874,000	
平成26年度第6回福岡市公募公債(20年)	200,000,000	209,334,000	
平成31年度第3回福岡市公募公債(20年)	600,000,000	530,046,000	
2019年度第5回福岡市公募公債(20年)	300,000,000	258,063,000	
2019年度第7回福岡市公募公債(20年)	500,000,000	426,715,000	
2023年度第3回福岡市公募公債(20年)	400,000,000	382,808,000	
平成30年度第2回広島市公募公債	700,000,000	646,611,000	
令和元年度第2回広島市公募公債	800,000,000	677,720,000	
令和元年度第4回広島市公募公債	400,000,000	345,644,000	
令和2年度第2回広島市公募公債	500,000,000	431,000,000	
平成30年度第2回仙台市公募公債	700,000,000	653,044,000	
令和5年度第3回千葉市公募公債	300,000,000	278,154,000	
令和5年度第5回千葉市公募公債	300,000,000	293,532,000	

平成26年度第1回福井県公募公債	100,000,000	105,879,000	
平成27年度第1回福井県公募公債	600,000,000	619,908,000	
令和元年度第1回福井県公募公債	400,000,000	344,084,000	
令和2年度第3回福井県公募公債	600,000,000	519,192,000	
令和5年度第4回福井県公募公債	300,000,000	281,193,000	
令和2年度第1回徳島県公募公債	330,000,000	313,420,800	
令和元年度第1回岡山県公募公債	320,000,000	303,094,400	
第5回神奈川県住宅供給公社債券	600,000,000	549,954,000	
第6回神奈川県住宅供給公社債券	400,000,000	390,680,000	
第7回神奈川県住宅供給公社債券	300,000,000	264,381,000	
第1回川崎市土地開発公社債券	700,000,000	699,650,000	
第8回地方公共団体金融機構債券(30年)	200,000,000	231,016,000	
第37回地方公共団体金融機構債券(20年)	200,000,000	211,428,000	
第42回地方公共団体金融機構債券(20年)	100,000,000	99,994,000	
第46回地方公共団体金融機構債券(20年)	100,000,000	101,473,000	
第51回地方公共団体金融機構債券(20年)	400,000,000	367,168,000	
第77回地方公共団体金融機構債券(20年)	500,000,000	419,565,000	
第79回地方公共団体金融機構債券(20年)	400,000,000	341,968,000	
第80回地方公共団体金融機構債券(20年)	500,000,000	427,480,000	
第83回地方公共団体金融機構債券(20年)	400,000,000	344,560,000	
第106回地方公共団体金融機構債券	400,000,000	372,264,000	
第107回地方公共団体金融機構債券	400,000,000	393,156,000	
第108回地方公共団体金融機構債券	300,000,000	298,743,000	
第11回広島県・広島市折半保証広島高速道路債券	300,000,000	282,792,000	
第10回大阪府住宅供給公社債券	300,000,000	298,662,000	
第12回大阪府住宅供給公社債券	500,000,000	494,015,000	
第134回愛知県・名古屋市折半保証名古屋高速道路債券	500,000,000	486,420,000	
第135回愛知県・名古屋市折半保証名古屋高速道路債券	400,000,000	377,276,000	
第151回愛知県・名古屋市折半保証名古屋高速道路債券	400,000,000	336,524,000	
第121回福岡北九州高速道路債券	400,000,000	436,732,000	
第147回福岡北九州高速道路債券	500,000,000	485,885,000	

	第148回福岡北九州高速道路債券	500,000,000	468,910,000	
	第150回福岡北九州高速道路債券	600,000,000	571,308,000	
	第24回東京都住宅供給公社債券	500,000,000	458,595,000	
	第26回東京都住宅供給公社債券	600,000,000	553,788,000	
	第29回東京都住宅供給公社債券	200,000,000	183,114,000	
	第30回東京都住宅供給公社債券	145,000,000	140,428,150	
	第32回東京都住宅供給公社債券	300,000,000	254,046,000	
	第33回東京都住宅供給公社債券	240,000,000	227,294,400	
	第36回東京都住宅供給公社債券	400,000,000	371,776,000	
	第37回東京都住宅供給公社債券	200,000,000	184,544,000	
	地方債証券 合計	67,770,608,000	63,429,723,442	
特殊債券	第61回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	119,785,000	
	第233回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	500,000,000	521,760,000	
	第235回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	500,000,000	516,920,000	
	第237回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	500,000,000	503,480,000	
	第239回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	500,000,000	513,205,000	
	第242回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	500,000,000	515,845,000	
	第245回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	600,000,000	609,930,000	
	第246回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	300,000,000	308,013,000	
	第250回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	600,000,000	622,248,000	
	第284回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	500,000,000	449,765,000	
	第293回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	500,000,000	462,365,000	
	第296回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	200,000,000	187,654,000	
	第298回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	500,000,000	470,110,000	
	第301回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	600,000,000	568,380,000	
	第304回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	700,000,000	672,357,000	
	第307回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	95,228,000	
	第314回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	600,000,000	563,526,000	
	第316回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	93,537,000	
	第322回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	600,000,000	559,140,000	
	第325回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	92,914,000	

	第328回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	600,000,000	559,470,000	
	第343回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	92,290,000	
	第358回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	700,000,000	647,689,000	
	第367回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	92,821,000	
	第373回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	700,000,000	633,395,000	
	第379回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	700,000,000	621,761,000	
	第21回政府保証民間都市開発債券	300,000,000	275,691,000	
	第22回政府保証民間都市開発債券	1,000,000,000	847,410,000	
	第23回政府保証民間都市開発債券	800,000,000	690,472,000	
特殊債券	合計	13,600,000,000	12,907,161,000	
社債券	第14回新関西国際空港株式会社社債	600,000,000	615,540,000	
	第16回新関西国際空港株式会社社債	300,000,000	304,077,000	
	第23回新関西国際空港株式会社社債	700,000,000	618,786,000	
	第108回株式会社日本政策投資銀行無担保社債	700,000,000	615,279,000	
	第113回株式会社日本政策投資銀行無担保社債	400,000,000	339,612,000	
	第125回株式会社日本政策投資銀行無担保社債	700,000,000	597,590,000	
	第130回株式会社日本政策投資銀行無担保社債	500,000,000	431,635,000	
	第135回株式会社日本政策投資銀行無担保社債	500,000,000	462,010,000	
	第147回株式会社日本政策投資銀行無担保社債	200,000,000	168,644,000	
	第175回株式会社日本政策投資銀行無担保社債	300,000,000	277,074,000	
	第34回日本政策投資銀行債券	200,000,000	234,976,000	
	第2回日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	117,324,000	
	第4回日本高速道路保有・債務返済機構債券	200,000,000	232,770,000	
	第150回日本高速道路保有・債務返済機構債券	100,000,000	101,220,000	
	第191回日本高速道路保有・債務返済機構債券	200,000,000	185,540,000	
	第313回日本高速道路保有・債務返済機構債券	800,000,000	763,400,000	
	第318回日本高速道路保有・債務返済機構債券	1,000,000,000	971,680,000	
	第33回道路債券	100,000,000	118,836,000	

第43回道路債券	200,000,000	233,322,000	
第124回都市再生債券	300,000,000	270,903,000	
第128回都市再生債券	500,000,000	456,260,000	
第133回都市再生債券	200,000,000	190,316,000	
第156回都市再生債券	400,000,000	345,000,000	
第157回都市再生債券	400,000,000	335,144,000	
第160回都市再生債券	600,000,000	511,962,000	
第167回都市再生債券	300,000,000	254,826,000	
第6回中部国際空港株式会社社債	500,000,000	490,245,000	
第159回一般担保住宅金融支援機構債券	300,000,000	303,015,000	
第166回一般担保住宅金融支援機構債券	100,000,000	101,842,000	
第279回一般担保住宅金融支援機構債券	800,000,000	742,064,000	
第283回一般担保住宅金融支援機構債券	400,000,000	369,648,000	
第308回一般担保住宅金融支援機構債券	200,000,000	182,916,000	
第355回一般担保住宅金融支援機構債券	300,000,000	277,059,000	
第357回一般担保住宅金融支援機構債券	800,000,000	764,472,000	
第358回一般担保住宅金融支援機構債券	400,000,000	398,980,000	
第23回成田国際空港株式会社社債	700,000,000	654,864,000	
第25回成田国際空港株式会社社債	300,000,000	275,763,000	
第35回成田国際空港株式会社社債	100,000,000	83,771,000	
第37回成田国際空港株式会社社債	300,000,000	255,738,000	
第39回成田国際空港株式会社社債	600,000,000	553,110,000	
第41回成田国際空港株式会社社債	600,000,000	516,312,000	
第27回国際協力機構債券	400,000,000	418,724,000	
第33回国際協力機構債券	100,000,000	100,567,000	
第36回国際協力機構債券	100,000,000	90,777,000	
第49回国際協力機構債券	300,000,000	258,357,000	
第54回国際協力機構債券	600,000,000	515,910,000	
第56回国際協力機構債券	700,000,000	600,068,000	
第77回国際協力機構債券	900,000,000	875,925,000	
第69回鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券	500,000,000	523,295,000	
第75回鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券	200,000,000	203,000,000	
第81回鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券	200,000,000	203,682,000	
第99回鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券	500,000,000	473,925,000	

第102回鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券	500,000,000	487,205,000	
第164回鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券	300,000,000	287,226,000	
第3回INPEX株式会社無担保社債	600,000,000	572,286,000	
第22回株式会社大林組無担保社債	600,000,000	592,608,000	
第24回清水建設株式会社無担保社債	200,000,000	198,150,000	
第25回清水建設株式会社無担保社債	200,000,000	194,414,000	
第11回株式会社長谷工コーポレーション無担保社債	700,000,000	693,630,000	
第12回株式会社長谷工コーポレーション無担保社債	600,000,000	585,162,000	
第14回株式会社長谷工コーポレーション無担保社債	500,000,000	487,510,000	
第26回前田建設工業株式会社無担保社債	300,000,000	299,664,000	
第5回住友林業株式会社無担保社債	400,000,000	395,288,000	
第8回住友林業株式会社無担保社債	500,000,000	491,485,000	
第9回住友林業株式会社無担保社債	700,000,000	681,639,000	
第13回大和ハウス工業株式会社無担保社債	100,000,000	99,315,000	
第1回株式会社日清製粉グループ本社無担保社債	600,000,000	583,002,000	
第15回森永乳業株式会社無担保社債	700,000,000	695,016,000	
第16回森永乳業株式会社無担保社債	200,000,000	197,278,000	
第17回森永乳業株式会社無担保社債	400,000,000	388,392,000	
第1回雪印メグミルク株式会社無担保社債	800,000,000	786,368,000	
第12回日本ハム株式会社無担保社債	600,000,000	589,284,000	
第34回サッポロホールディングス株式会社無担保社債	500,000,000	485,540,000	
第12回アサヒグループホールディングス株式会社無担保社債	700,000,000	695,170,000	
第22回アサヒグループホールディングス株式会社無担保社債	400,000,000	397,492,000	
第13回麒麟ホールディングス株式会社無担保社債	800,000,000	777,592,000	
第17回麒麟ホールディングス株式会社無担保社債	100,000,000	97,439,000	
第24回麒麟ホールディングス株式会社無担保社債	1,000,000,000	1,021,300,000	
第16回宝ホールディングス株式会社無担保社債	200,000,000	198,704,000	

第10回サントリーホールディングス株式会社無担保社債	800,000,000	774,176,000	
第12回サントリーホールディングス株式会社無担保社債	600,000,000	588,060,000	
第3回コカ・コーラボトラーズジャパンホールディングス社債	600,000,000	583,734,000	
第12回日清オイリオグループ株式会社無担保社債	300,000,000	297,003,000	
第2回株式会社J・オイルミルズ無担保社債	600,000,000	595,080,000	
第35回双日株式会社無担保社債	300,000,000	296,724,000	
第25回味の素株式会社無担保社債	700,000,000	697,151,000	
第25回株式会社ニチレイ無担保社債	300,000,000	296,787,000	
第7回中央日本土地建物グループ株式会社無担保社債	300,000,000	297,861,000	
第6回J・フロントリテイリング株式会社無担保社債	700,000,000	696,241,000	
第43回東洋紡株式会社無担保社債	400,000,000	390,244,000	
第5回トヨタ紡織株式会社無担保社債	300,000,000	297,720,000	
第8回トヨタ紡織株式会社無担保社債	300,000,000	302,796,000	
第13回東急不動産ホールディングス株式会社無担保社債	500,000,000	496,915,000	
第19回株式会社セブン&アイ・ホールディングス無担保社債	700,000,000	720,706,000	
第30回東レ株式会社無担保社債	700,000,000	696,241,000	
第36回東レ株式会社無担保社債	500,000,000	504,165,000	
第8回株式会社クラレ無担保社債	600,000,000	591,282,000	
第12回旭化成株式会社無担保社債	500,000,000	485,585,000	
第15回旭化成株式会社無担保社債	500,000,000	483,845,000	
第34回王子製紙株式会社無担保社債	200,000,000	198,342,000	
第35回王子製紙株式会社無担保社債	300,000,000	296,427,000	
第40回王子ホールディングス株式会社無担保社債	700,000,000	680,120,000	
第25回レンゴー株式会社無担保社債	200,000,000	196,608,000	
第27回レンゴー株式会社無担保社債	800,000,000	773,696,000	
第32回レンゴー株式会社無担保社債	200,000,000	200,282,000	
第56回住友化学株式会社無担保社債	700,000,000	691,880,000	
第59回住友化学株式会社無担保社債	100,000,000	98,247,000	

第61回住友化学株式会社無担保社債	400,000,000	390,296,000	
第3回エア・ウォーター株式会社無担保社債	400,000,000	395,236,000	
第4回エア・ウォーター株式会社無担保社債	600,000,000	592,032,000	
第6回エア・ウォーター株式会社無担保社債	400,000,000	389,548,000	
第11回エア・ウォーター株式会社無担保社債	500,000,000	488,895,000	
第8回株式会社カネカ無担保社債	200,000,000	193,318,000	
第23回三菱瓦斯化学株式会社無担保社債	400,000,000	385,568,000	
第46回三井化学株式会社無担保社債	100,000,000	99,256,000	
第50回三井化学株式会社無担保社債	500,000,000	485,295,000	
第26回株式会社三菱ケミカルホールディングス無担保社債	600,000,000	590,196,000	
第33回株式会社三菱ケミカルホールディングス無担保社債	1,000,000,000	965,400,000	
第17回ダイセル化学工業株式会社無担保社債	200,000,000	194,396,000	
第7回積水化学工業株式会社無担保社債	500,000,000	486,430,000	
第4回株式会社野村総合研究所無担保社債	600,000,000	592,278,000	
第6回株式会社野村総合研究所無担保社債	500,000,000	485,090,000	
第14回株式会社野村総合研究所無担保社債	400,000,000	401,228,000	
第3回株式会社電通無担保社債	700,000,000	691,621,000	
第16回武田薬品工業株式会社無担保社債	1,000,000,000	953,320,000	
第4回アステラス製薬株式会社無担保社債	500,000,000	497,735,000	
第2回株式会社ツムラ無担保社債	600,000,000	594,498,000	
第9回テルモ株式会社無担保社債	1,000,000,000	991,230,000	
第3回みらかホールディングス株式会社無担保社債	400,000,000	399,316,000	
第3回大塚ホールディングス株式会社無担保社債	1,000,000,000	984,130,000	
第15回株式会社オリエンタルランド無担保社債	700,000,000	687,470,000	
第7回富士フィルムホールディングス株式会社無担保社債	300,000,000	297,876,000	
第2回JXTGホールディングス株式会社無担保社債	700,000,000	695,555,000	
第4回ENEOSホールディングス株式会社無担保社債	400,000,000	390,128,000	
第16回横浜ゴム株式会社無担保社債	800,000,000	768,864,000	

第11回株式会社ブリヂストン無担保社債	800,000,000	794,216,000	
第14回株式会社ブリヂストン無担保社債	1,000,000,000	982,820,000	
第15回旭硝子株式会社無担保社債	600,000,000	596,226,000	
第9回日本特殊陶業株式会社無担保社債	800,000,000	788,208,000	
第11回日本特殊陶業株式会社無担保社債	500,000,000	486,530,000	
第4回新日鐵住金株式会社無担保社債	100,000,000	99,385,000	
第3回日本製鉄株式会社無担保社債	700,000,000	681,464,000	
第29回ジェイエフイーホールディングス株式会社無担保社債	600,000,000	587,310,000	
第32回住友金属鉱山株式会社無担保社債	800,000,000	773,192,000	
第31回住友電気工業株式会社無担保社債	500,000,000	491,130,000	
第14回三和ホールディングス株式会社無担保社債	600,000,000	581,460,000	
第6回住友重機械工業株式会社無担保社債	400,000,000	389,176,000	
第15回株式会社クボタ無担保社債	600,000,000	578,682,000	
第22回ダイキン工業株式会社無担保社債	100,000,000	99,329,000	
第24回ダイキン工業株式会社無担保社債	600,000,000	581,004,000	
第27回ダイキン工業株式会社無担保社債	300,000,000	289,413,000	
第6回株式会社タダノ無担保社債	800,000,000	790,312,000	
第47回日本精工株式会社無担保社債	300,000,000	297,051,000	
第57回日本精工株式会社無担保社債	200,000,000	198,402,000	
第7回株式会社ジェイテクト無担保社債	400,000,000	394,904,000	
第9回株式会社ジェイテクト無担保社債	500,000,000	485,615,000	
第23回株式会社日立製作所無担保社債	200,000,000	199,728,000	
第30回富士電機株式会社無担保社債	100,000,000	99,078,000	
第63回日本電気株式会社無担保社債	400,000,000	384,408,000	
第17回セイコーエプソン株式会社無担保社債	700,000,000	692,265,000	
第22回セイコーエプソン株式会社無担保社債	800,000,000	775,552,000	
第19回パナソニック株式会社無担保社債	600,000,000	583,560,000	

第24回パナソニック株式会社無担保社債	700,000,000	698,040,000	
第36回ソニー株式会社無担保社債	700,000,000	682,122,000	
第41回ソニーグループ株式会社無担保社債	300,000,000	299,481,000	
第6回TDK株式会社無担保社債	200,000,000	197,918,000	
第7回TDK株式会社無担保社債	800,000,000	777,280,000	
第5回株式会社堀場製作所無担保社債	700,000,000	691,278,000	
第6回株式会社堀場製作所無担保社債	600,000,000	579,966,000	
第15回株式会社デンソー無担保社債	1,000,000,000	992,670,000	
第1回東海理化電機製作所無担保社債	300,000,000	296,910,000	
第4回昭和リース株式会社無担保社債	800,000,000	797,736,000	
第5回コンコルディア・フィナンシャルグループ(劣後)	500,000,000	499,015,000	
第7回コンコルディア・フィナンシャルグループ(劣後)	500,000,000	497,125,000	
第4回豊田合成株式会社無担保社債	400,000,000	399,388,000	
第1回日本生命2021基金流動化株式会社無担保社債(劣後)	400,000,000	396,468,000	
第3回株式会社トプコン無担保社債	500,000,000	498,735,000	
第4回大日本印刷株式会社無担保社債	800,000,000	781,736,000	
第4回株式会社ニフコ無担保社債	500,000,000	498,670,000	
第5回株式会社ニフコ無担保社債	500,000,000	491,820,000	
第6回株式会社ニフコ無担保社債	700,000,000	677,376,000	
第7回長瀬産業株式会社無担保社債	600,000,000	579,948,000	
第8回長瀬産業株式会社無担保社債	400,000,000	383,188,000	
第63回三井物産株式会社無担保社債	200,000,000	211,032,000	
第73回三井物産株式会社無担保社債	800,000,000	779,664,000	
第75回三井物産株式会社無担保社債	700,000,000	678,006,000	
第83回三菱商事株式会社無担保社債	1,000,000,000	1,004,190,000	
第21回株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ(劣後)	700,000,000	697,375,000	
第1回株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ(劣後)	100,000,000	100,053,000	
第2回株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ(劣後)	700,000,000	689,304,000	
第3回株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ(劣後)	600,000,000	560,988,000	

第7回株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ(劣後)	200,000,000	201,490,000	
第7回株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	700,000,000	664,293,000	
第12回株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,000,000,000	999,860,000	
第1回三井住友トラスト・ホールディングス無担保社債(劣後)	200,000,000	200,048,000	
第3回三井住友トラスト・ホールディングス無担保社債(劣後)	430,000,000	427,389,900	
第6回三井住友トラスト・ホールディングス無担保社債(劣後)	800,000,000	787,888,000	
第15回三井住友トラスト・ホールディングス無担保社債(劣後)	600,000,000	597,126,000	
第16回三井住友トラスト・ホールディングス無担保社債(劣後)	1,000,000,000	983,870,000	
第4回三井住友トラスト・ホールディングス無担保社債(劣後)	725,000,000	717,010,500	
第8回株式会社みずほコーポレート銀行無担保社債	600,000,000	636,690,000	
第88回株式会社三菱東京UFJ銀行無担保社債	200,000,000	210,758,000	
第23回株式会社三菱東京UFJ銀行無担保社債(劣後特約付)	600,000,000	655,686,000	
第24回株式会社三菱東京UFJ銀行無担保社債(劣後特約付)	400,000,000	424,176,000	
第26回株式会社三菱東京UFJ銀行無担保社債(劣後特約付)	200,000,000	203,434,000	
第29回株式会社三菱東京UFJ銀行無担保社債(劣後特約付)	100,000,000	102,234,000	
第33回株式会社三菱東京UFJ銀行無担保社債(劣後特約付)	100,000,000	102,745,000	
第1回株式会社三井住友フィナンシャルグループ(劣後)	400,000,000	400,104,000	
第4回株式会社三井住友フィナンシャルグループ(劣後)	800,000,000	801,096,000	
第7回株式会社三井住友フィナンシャルグループ(劣後)	480,000,000	480,302,400	
第9回株式会社三井住友フィナンシャルグループ(劣後)	240,000,000	237,379,200	
第13回株式会社三井住友フィナンシャルグループ(劣後)	130,000,000	128,663,600	
第14回株式会社三井住友フィナンシャルグループ(劣後)	710,000,000	695,658,000	
第6回株式会社三井住友フィナンシャルグループ	800,000,000	785,832,000	
第9回株式会社りそな銀行無担保社債(劣後特約付)	500,000,000	517,885,000	
第12回株式会社りそな銀行無担保社債(劣後特約付)	800,000,000	831,192,000	
第1回株式会社千葉銀行無担保社債(劣後特約付)	600,000,000	599,670,000	
第4回株式会社群馬銀行無担保社債(劣後)	800,000,000	799,728,000	

第5回株式会社群馬銀行無担保社債(劣後)	800,000,000	797,552,000	
第6回株式会社群馬銀行無担保社債(劣後)	800,000,000	788,432,000	
第7回株式会社群馬銀行無担保社債(劣後)	300,000,000	296,766,000	
第8回三菱UFJ信託銀行株式会社無担保社債(劣後特約付)	100,000,000	101,628,000	
第6回住友信託銀行株式会社無担保社債(劣後特約付)	600,000,000	621,798,000	
第8回住友信託銀行株式会社無担保社債(劣後特約付)	400,000,000	417,260,000	
第13回住友信託銀行株式会社無担保社債(劣後特約付)	300,000,000	308,517,000	
第21回三井住友信託銀行株式会社無担保社債	700,000,000	692,867,000	
第12回株式会社セブン銀行無担保社債	500,000,000	496,205,000	
第23回株式会社みずほフィナンシャルグループ無担保社債(劣後)	500,000,000	485,955,000	
第28回株式会社みずほフィナンシャルグループ無担保社債(劣後)	1,300,000,000	1,284,634,000	
第29回株式会社みずほフィナンシャルグループ無担保社債(劣後)	1,000,000,000	992,480,000	
第25回株式会社三井住友銀行無担保社債(劣後特約付)	500,000,000	513,545,000	
第28回株式会社三井住友銀行無担保社債(劣後特約付)	600,000,000	619,020,000	
第5回株式会社みずほ銀行無担保社債(劣後特約付)	100,000,000	102,653,000	
第7回株式会社みずほ銀行無担保社債(劣後特約付)	200,000,000	209,174,000	
第9回株式会社みずほ銀行無担保社債(劣後特約付)	500,000,000	521,315,000	
第15回株式会社みずほ銀行無担保社債(劣後特約付)	200,000,000	218,348,000	
第18回株式会社みずほ銀行無担保社債(劣後特約付)	400,000,000	410,184,000	
第21回みずほリース株式会社無担保社債	300,000,000	298,512,000	
第24回みずほリース株式会社無担保社債	500,000,000	499,535,000	
第3回NTTファイナンス株式会社無担保社債	600,000,000	584,622,000	
第5回NTTファイナンス株式会社無担保社債	600,000,000	578,388,000	
第30回NTTファイナンス株式会社無担保社債	1,000,000,000	1,017,760,000	
第27回SBIホールディングス株式会社無担保社債	800,000,000	800,192,000	
第11回イオンフィナンシャルサービス株式会社無担保社債	800,000,000	798,440,000	
第8回イオンフィナンシャルサービス株式会社無担保社債	200,000,000	199,820,000	

第9回イオンフィナンシャルサービス株式会社無担保社債	700,000,000	693,511,000	
第32回株式会社オリエントコーポレーション無担保社債	800,000,000	751,128,000	
第6回株式会社アプラスフィナンシャル無担保社債	600,000,000	598,320,000	
第217回オリックス株式会社無担保社債	600,000,000	596,010,000	
第17回三井住友ファイナンス&リース株式会社無担保社債	300,000,000	297,717,000	
第20回三井住友ファイナンス&リース株式会社無担保社債	600,000,000	592,908,000	
第59回三菱UFJリース株式会社無担保社債	200,000,000	197,248,000	
第61回三菱UFJリース株式会社無担保社債	200,000,000	196,796,000	
第3回三菱HCキャピタル株式会社無担保社債	600,000,000	569,250,000	
第5回三菱HCキャピタル株式会社無担保社債	200,000,000	195,604,000	
第51回野村ホールディングス株式会社無担保社債	200,000,000	199,888,000	
第5回野村ホールディングス無担保社債	800,000,000	794,200,000	
第7回三井住友海上火災保険株式会社無担保社債	400,000,000	396,104,000	
第2回損害保険ジャパン株式会社無担保社債	300,000,000	289,779,000	
第42回三井不動産株式会社無担保社債	100,000,000	109,541,000	
第48回三井不動産株式会社無担保社債	100,000,000	108,444,000	
第67回三井不動産株式会社無担保社債	300,000,000	294,792,000	
第71回三井不動産株式会社無担保社債	600,000,000	583,374,000	
第83回三井不動産株式会社無担保社債	700,000,000	684,033,000	
第84回三井不動産株式会社無担保社債	300,000,000	298,824,000	
第65回三菱地所株式会社無担保社債	200,000,000	216,656,000	
第83回三菱地所株式会社無担保社債	200,000,000	212,628,000	
第86回三菱地所株式会社無担保社債	300,000,000	319,872,000	
第118回三菱地所株式会社無担保社債	300,000,000	298,263,000	
第130回三菱地所株式会社無担保社債	700,000,000	682,493,000	
第111回住友不動産株式会社無担保社債	500,000,000	497,700,000	
第8回NTTファイナンス株式会社無担保社債	300,000,000	324,789,000	

第13回NTTファイナンス株式会社無担保社債	200,000,000	204,116,000	
第111回東武鉄道株式会社無担保社債	600,000,000	585,252,000	
第112回東武鉄道株式会社無担保社債	500,000,000	462,535,000	
第116回東武鉄道株式会社無担保社債	900,000,000	820,899,000	
第119回東武鉄道株式会社無担保社債	500,000,000	448,845,000	
第121回東武鉄道株式会社無担保社債	800,000,000	691,632,000	
第123回東武鉄道株式会社無担保社債	700,000,000	610,876,000	
第35回相鉄ホールディングス株式会社無担保社債	600,000,000	591,438,000	
第36回相鉄ホールディングス株式会社無担保社債	700,000,000	684,320,000	
第37回相鉄ホールディングス株式会社無担保社債	700,000,000	675,157,000	
第38回相鉄ホールディングス株式会社無担保社債	400,000,000	386,856,000	
第39回相鉄ホールディングス株式会社無担保社債	200,000,000	197,552,000	
第40回相鉄ホールディングス株式会社無担保社債	700,000,000	656,789,000	
第41回相鉄ホールディングス株式会社無担保社債	700,000,000	604,982,000	
第1回東急株式会社無担保社債	800,000,000	681,992,000	
第4回東急株式会社無担保社債	600,000,000	523,128,000	
第78回東京急行電鉄株式会社無担保社債	400,000,000	415,180,000	
第80回東京急行電鉄株式会社無担保社債	200,000,000	205,008,000	
第82回東京急行電鉄株式会社無担保社債	600,000,000	613,026,000	
第83回東京急行電鉄株式会社無担保社債	200,000,000	194,546,000	
第84回東京急行電鉄株式会社無担保社債	100,000,000	93,253,000	
第85回東京急行電鉄株式会社無担保社債	600,000,000	562,536,000	
第88回東京急行電鉄株式会社無担保社債	700,000,000	635,362,000	
第38回京浜急行電鉄株式会社無担保社債	600,000,000	616,104,000	
第40回京浜急行電鉄株式会社無担保社債	300,000,000	278,664,000	
第41回京浜急行電鉄株式会社無担保社債	700,000,000	640,122,000	
第42回京浜急行電鉄株式会社無担保社債	700,000,000	636,223,000	

第43回京浜急行電鉄株式会社無担保社債	1,000,000,000	887,420,000	
第44回京浜急行電鉄株式会社無担保社債	600,000,000	510,558,000	
第45回京浜急行電鉄株式会社無担保社債	600,000,000	517,830,000	
第68回小田急電鉄株式会社無担保社債	600,000,000	612,426,000	
第72回小田急電鉄株式会社無担保社債	500,000,000	462,260,000	
第74回小田急電鉄株式会社無担保社債	700,000,000	649,180,000	
第77回小田急電鉄株式会社無担保社債	600,000,000	550,872,000	
第80回小田急電鉄株式会社無担保社債	800,000,000	730,016,000	
第81回小田急電鉄株式会社無担保社債	700,000,000	688,828,000	
第84回小田急電鉄株式会社無担保社債	600,000,000	525,192,000	
第88回小田急電鉄株式会社無担保社債	800,000,000	702,480,000	
第26回京王電鉄株式会社無担保社債	100,000,000	106,640,000	
第35回京王電鉄株式会社無担保社債	100,000,000	98,473,000	
第36回京王電鉄株式会社無担保社債	500,000,000	496,620,000	
第37回京王電鉄株式会社無担保社債	600,000,000	554,670,000	
第38回京王電鉄株式会社無担保社債	100,000,000	99,109,000	
第39回京王電鉄株式会社無担保社債	500,000,000	459,035,000	
第42回京王電鉄株式会社無担保社債	400,000,000	351,252,000	
第50回京成電鉄株式会社無担保社債	600,000,000	583,476,000	
第52回京成電鉄株式会社無担保社債	600,000,000	546,660,000	
第53回京成電鉄株式会社無担保社債	1,000,000,000	897,650,000	
第54回京成電鉄株式会社無担保社債	400,000,000	347,820,000	
第57回京成電鉄株式会社無担保社債	400,000,000	341,832,000	
第51回東日本旅客鉄道株式会社無担保普通社債	200,000,000	213,008,000	
第65回東日本旅客鉄道株式会社無担保普通社債	300,000,000	324,711,000	
第67回東日本旅客鉄道株式会社無担保普通社債	300,000,000	327,282,000	
第71回東日本旅客鉄道株式会社無担保普通社債	400,000,000	429,868,000	

第73回東日本旅客鉄道株式会社無担保普通社債	100,000,000	108,856,000	
第86回東日本旅客鉄道株式会社無担保普通社債	300,000,000	320,181,000	
第91回東日本旅客鉄道株式会社無担保普通社債	300,000,000	320,724,000	
第103回東日本旅客鉄道株式会社無担保普通社債	400,000,000	416,212,000	
第106回東日本旅客鉄道株式会社無担保普通社債	100,000,000	98,470,000	
第120回東日本旅客鉄道株式会社無担保普通社債	500,000,000	463,820,000	
第143回東日本旅客鉄道株式会社無担保普通社債	800,000,000	679,384,000	
第198回東日本旅客鉄道株式会社無担保普通社債	200,000,000	193,944,000	
第21回西日本旅客鉄道株式会社無担保社債	300,000,000	323,148,000	
第23回西日本旅客鉄道株式会社無担保社債	200,000,000	216,082,000	
第26回西日本旅客鉄道株式会社無担保社債	200,000,000	218,258,000	
第28回西日本旅客鉄道株式会社無担保社債	800,000,000	867,976,000	
第36回西日本旅客鉄道株式会社無担保社債	200,000,000	209,228,000	
第38回西日本旅客鉄道株式会社無担保社債	400,000,000	406,836,000	
第40回西日本旅客鉄道株式会社無担保社債	400,000,000	401,804,000	
第61回西日本旅客鉄道株式会社無担保社債	800,000,000	692,384,000	
第37回東海旅客鉄道株式会社無担保普通社債	200,000,000	214,828,000	
第58回東海旅客鉄道株式会社無担保普通社債	200,000,000	215,684,000	
第65回東海旅客鉄道株式会社無担保普通社債	500,000,000	535,345,000	
第69回東海旅客鉄道株式会社無担保普通社債	600,000,000	624,324,000	
第70回東海旅客鉄道株式会社無担保普通社債	100,000,000	103,312,000	
第72回東海旅客鉄道株式会社無担保普通社債	700,000,000	717,206,000	
第73回東海旅客鉄道株式会社無担保普通社債	700,000,000	691,859,000	
第75回東海旅客鉄道株式会社無担保普通社債	100,000,000	100,506,000	
第76回東海旅客鉄道株式会社無担保普通社債	100,000,000	101,517,000	
第10回東京地下鉄株式会社社債	500,000,000	544,865,000	
第13回東京地下鉄株式会社社債	100,000,000	106,498,000	
第14回東京地下鉄株式会社社債	100,000,000	106,862,000	

第16回東京地下鉄株式会社社債	300,000,000	285,408,000	
第18回東京地下鉄株式会社社債	700,000,000	629,272,000	
第23回東京地下鉄株式会社社債	700,000,000	644,119,000	
第26回東京地下鉄株式会社社債	600,000,000	547,656,000	
第29回東京地下鉄株式会社社債	100,000,000	90,249,000	
第38回東京地下鉄株式会社社債	600,000,000	509,160,000	
第49回東京地下鉄株式会社社債	300,000,000	255,120,000	
第62回東京地下鉄株式会社社債	400,000,000	396,896,000	
第1回株式会社西武ホールディングス無担保社債	600,000,000	576,804,000	
第2回株式会社西武ホールディングス無担保社債	500,000,000	471,790,000	
第3回株式会社西武ホールディングス無担保社債	700,000,000	684,005,000	
第45回西日本鉄道株式会社無担保社債	700,000,000	691,033,000	
第46回西日本鉄道株式会社無担保社債	700,000,000	642,572,000	
第47回西日本鉄道株式会社無担保社債	700,000,000	653,723,000	
第48回西日本鉄道株式会社無担保社債	500,000,000	456,810,000	
第50回西日本鉄道株式会社無担保社債	700,000,000	690,963,000	
第51回西日本鉄道株式会社無担保社債	700,000,000	608,825,000	
第99回近鉄グループホールディングス株式会社無担保社債	500,000,000	483,280,000	
第102回近鉄グループホールディングス株式会社無担保社債	700,000,000	665,070,000	
第106回近鉄グループホールディングス株式会社無担保社債	700,000,000	690,347,000	
第111回近鉄グループホールディングス株式会社無担保社債	700,000,000	612,451,000	
第112回近鉄グループホールディングス株式会社無担保社債	800,000,000	777,472,000	
第117回近鉄グループホールディングス株式会社無担保社債	900,000,000	759,186,000	
第47回阪急阪神ホールディングス株式会社無担保社債	500,000,000	513,755,000	
第49回阪急阪神ホールディングス株式会社無担保社債	800,000,000	752,936,000	
第51回阪急阪神ホールディングス株式会社無担保社債	700,000,000	638,218,000	
第52回阪急阪神ホールディングス株式会社無担保社債	500,000,000	487,195,000	
第54回阪急阪神ホールディングス株式会社無担保社債	800,000,000	677,056,000	
第40回南海電気鉄道株式会社無担保社債	600,000,000	592,686,000	
第41回南海電気鉄道株式会社無担保社債	700,000,000	680,456,000	

第42回南海電気鉄道株式会社無担保社債	600,000,000	577,980,000	
第43回南海電気鉄道株式会社無担保社債	700,000,000	644,658,000	
第44回南海電気鉄道株式会社無担保社債	800,000,000	724,632,000	
第45回南海電気鉄道株式会社無担保社債	700,000,000	676,032,000	
第46回南海電気鉄道株式会社無担保社債	500,000,000	427,990,000	
第47回南海電気鉄道株式会社無担保社債	300,000,000	291,939,000	
第30回京阪ホールディングス株式会社無担保社債	700,000,000	622,727,000	
第31回京阪ホールディングス株式会社無担保社債	200,000,000	197,456,000	
第32回京阪ホールディングス株式会社無担保社債	700,000,000	595,651,000	
第50回名古屋鉄道株式会社無担保社債	200,000,000	201,816,000	
第52回名古屋鉄道株式会社無担保社債	600,000,000	559,062,000	
第53回名古屋鉄道株式会社無担保社債	300,000,000	288,648,000	
第54回名古屋鉄道株式会社無担保社債	700,000,000	649,103,000	
第55回名古屋鉄道株式会社無担保社債	600,000,000	550,398,000	
第56回名古屋鉄道株式会社無担保社債	600,000,000	542,892,000	
第57回名古屋鉄道株式会社無担保社債	500,000,000	457,560,000	
第58回名古屋鉄道株式会社無担保社債	800,000,000	709,816,000	
第59回名古屋鉄道株式会社無担保社債	400,000,000	341,936,000	
第63回名古屋鉄道株式会社無担保社債	300,000,000	256,980,000	
第70回名古屋鉄道株式会社無担保社債	500,000,000	500,390,000	
第7回ニッコンホールディングス株式会社無担保社債	400,000,000	387,300,000	
第9回ニッコンホールディングス株式会社無担保社債	800,000,000	774,408,000	
第2回横浜高速鉄道株式会社無担保社債	200,000,000	199,088,000	
第3回横浜高速鉄道株式会社無担保社債	400,000,000	395,016,000	
第4回横浜高速鉄道株式会社無担保社債	700,000,000	688,765,000	
第5回横浜高速鉄道株式会社無担保社債	800,000,000	776,448,000	
第6回横浜高速鉄道株式会社無担保社債	500,000,000	486,110,000	

第8回横浜高速鉄道株式会社無担保社債	200,000,000	194,660,000	
第1回九州旅客鉄道株式会社無担保社債	600,000,000	587,202,000	
第3回九州旅客鉄道株式会社無担保社債	300,000,000	291,615,000	
第4回九州旅客鉄道株式会社無担保社債	400,000,000	338,916,000	
第6回九州旅客鉄道株式会社無担保社債	400,000,000	388,196,000	
第7回九州旅客鉄道株式会社無担保社債	500,000,000	432,630,000	
第10回九州旅客鉄道株式会社無担保社債	300,000,000	249,624,000	
第1回東京臨海高速鉄道株式会社無担保社債	500,000,000	483,475,000	
第2回東京臨海高速鉄道株式会社無担保社債	400,000,000	380,612,000	
第2回NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社	300,000,000	300,006,000	
第2回日本貨物鉄道株式会社社債	300,000,000	263,196,000	
第4回日本貨物鉄道株式会社社債	100,000,000	94,783,000	
第1回日本航空株式会社無担保社債	700,000,000	692,440,000	
第3回日本航空株式会社無担保社債	500,000,000	485,855,000	
第7回日本航空株式会社無担保社債	800,000,000	762,440,000	
第17回三菱倉庫株式会社無担保社債	500,000,000	493,555,000	
第18回三菱倉庫株式会社無担保社債	700,000,000	674,387,000	
第19回三菱倉庫株式会社無担保社債	400,000,000	339,488,000	
第20回三菱倉庫株式会社無担保社債	100,000,000	99,873,000	
第6回株式会社住友倉庫無担保社債	700,000,000	629,692,000	
第8回株式会社住友倉庫無担保社債	600,000,000	579,228,000	
第10回株式会社住友倉庫無担保社債	300,000,000	287,079,000	
第25回KDDI株式会社無担保社債	400,000,000	393,728,000	
第13回ソフトバンク無担保社債	800,000,000	749,480,000	
第16回ソフトバンク無担保社債	700,000,000	652,078,000	
第17回ソフトバンク無担保社債	700,000,000	677,222,000	
第18回ソフトバンク無担保社債	600,000,000	560,694,000	
第23回ソフトバンク無担保社債	700,000,000	680,400,000	
第530回中部電力株式会社社債	600,000,000	584,982,000	
第554回中部電力株式会社社債	100,000,000	96,091,000	
第556回中部電力株式会社社債	800,000,000	772,424,000	

第5 1 5 回関西電力株式会社社債	600,000,000	593,448,000	
第5 4 1 回関西電力株式会社社債	800,000,000	764,064,000	
第5 4 4 回関西電力株式会社社債	500,000,000	475,945,000	
第5 4 8 回関西電力株式会社社債	900,000,000	866,781,000	
第5 5 1 回関西電力株式会社社債	800,000,000	775,296,000	
第3 9 8 回中国電力株式会社社債	400,000,000	397,844,000	
第4 0 4 回中国電力株式会社社債	100,000,000	98,708,000	
第4 1 6 回中国電力株式会社社債	300,000,000	293,598,000	
第4 3 4 回中国電力株式会社社債	500,000,000	479,400,000	
第4 3 6 回中国電力株式会社社債	300,000,000	288,789,000	
第4 5 4 回中国電力株式会社社債	1,000,000,000	1,018,140,000	
第3 1 1 回北陸電力株式会社社債	200,000,000	201,590,000	
第3 1 8 回北陸電力株式会社社債	50,000,000	49,633,000	
第3 2 1 回北陸電力株式会社社債	300,000,000	298,245,000	
第3 2 2 回北陸電力株式会社社債	500,000,000	496,730,000	
第3 4 2 回北陸電力株式会社社債	100,000,000	95,726,000	
第3 4 9 回北陸電力株式会社社債	600,000,000	577,380,000	
第4 9 2 回東北電力株式会社社債	400,000,000	398,144,000	
第4 9 6 回東北電力株式会社社債	300,000,000	297,276,000	
第5 1 7 回東北電力株式会社社債	100,000,000	96,847,000	
第5 3 6 回東北電力株式会社社債	400,000,000	380,168,000	
第5 3 8 回東北電力株式会社社債	700,000,000	666,029,000	
第5 4 1 回東北電力株式会社社債	700,000,000	665,728,000	
第5 4 4 回東北電力株式会社社債	700,000,000	675,423,000	
第2 9 6 回四国電力株式会社社債	200,000,000	198,348,000	
第3 0 7 回四国電力株式会社社債	300,000,000	290,973,000	
第3 0 9 回四国電力株式会社社債	500,000,000	487,115,000	
第3 1 7 回四国電力株式会社社債	200,000,000	165,300,000	
第3 2 0 回四国電力株式会社社債	200,000,000	192,812,000	
第3 2 3 回四国電力株式会社社債	800,000,000	776,816,000	
第4 8 9 回九州電力株式会社社債	400,000,000	389,944,000	
第5 0 2 回九州電力株式会社社債	500,000,000	479,795,000	
第5 0 4 回九州電力株式会社社債	700,000,000	675,703,000	
第5 0 7 回九州電力株式会社社債	800,000,000	774,680,000	
第3 2 1 回北海道電力株式会社社債	11,000,000	11,048,400	
第3 4 2 回北海道電力株式会社社債	200,000,000	199,106,000	
第2 6 回沖縄電力株式会社社債	700,000,000	686,637,000	
第2 7 回沖縄電力株式会社社債	800,000,000	774,288,000	
第2 8 回沖縄電力株式会社社債	300,000,000	288,249,000	
第4 9 回電源開発株式会社無担保社債	300,000,000	298,386,000	
第1 5 回東京電力パワーグリッド株式会社社債	600,000,000	591,534,000	
第2 6 回東京電力パワーグリッド株式会社社債	100,000,000	97,972,000	
第3 1 回東京電力パワーグリッド株式会社社債	400,000,000	398,840,000	

第32回東京電力パワーグリッド株式会社社債	100,000,000	97,004,000	
第40回東京電力パワーグリッド株式会社社債	500,000,000	485,585,000	
第45回東京電力パワーグリッド株式会社社債	800,000,000	778,472,000	
第46回東京電力パワーグリッド株式会社社債	700,000,000	649,292,000	
第48回東京電力パワーグリッド株式会社社債	800,000,000	722,776,000	
第50回東京電力パワーグリッド株式会社社債	800,000,000	778,776,000	
第5回東京電力リニューアブルパワー株式会社無担保社債	200,000,000	199,800,000	
第36回東京瓦斯株式会社無担保社債	400,000,000	427,060,000	
第37回東京瓦斯株式会社無担保社債	300,000,000	320,709,000	
第39回東京瓦斯株式会社無担保社債	700,000,000	732,438,000	
第43回東京瓦斯株式会社無担保社債	700,000,000	645,274,000	
第46回東京瓦斯株式会社無担保社債	300,000,000	267,633,000	
第48回東京瓦斯株式会社無担保社債	300,000,000	270,789,000	
第52回東京瓦斯株式会社無担保社債	1,000,000,000	865,720,000	
第55回東京瓦斯株式会社無担保社債	800,000,000	665,440,000	
第68回東京瓦斯株式会社無担保社債	500,000,000	417,420,000	
第73回東京瓦斯株式会社無担保社債	300,000,000	297,630,000	
第32回大阪瓦斯株式会社無担保社債	400,000,000	420,132,000	
第33回大阪瓦斯株式会社無担保社債	600,000,000	617,490,000	
第42回大阪瓦斯株式会社無担保社債	200,000,000	168,966,000	
第45回大阪瓦斯株式会社無担保社債	800,000,000	711,768,000	
第52回大阪瓦斯株式会社無担保社債	300,000,000	286,455,000	
第36回東邦瓦斯株式会社無担保社債	300,000,000	309,765,000	
第44回東邦瓦斯株式会社無担保社債	700,000,000	599,060,000	
第13回広島ガス株式会社無担保社債	600,000,000	590,310,000	
第14回広島ガス株式会社無担保社債	800,000,000	769,728,000	
第16回西部瓦斯株式会社無担保社債	700,000,000	687,470,000	

	第7回株式会社ファーストリテイ リング無担保社債	900,000,000	892,269,000	
社債券	合計	255,176,000,000	246,306,370,000	
	合計	364,046,608,000	350,277,848,442	

第2 信用取引契約残高明細表
該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表
該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

2024年3月29日 現在

種類	金額
資産総額	3,619,136,283 円
負債総額	9,638,568 円
純資産総額（ - ）	3,609,497,715 円
発行済数量	3,890,259,996 口
1 単位当たり純資産額（ / ）	0.9278 円

（ご参考：親投資信託の現況）

東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド

2024年3月29日 現在

種類	金額
資産総額	354,575,592,509 円
負債総額	1,222,349,966 円
純資産総額（ - ）	353,353,242,543 円
発行済数量	299,814,846,036 口
1 単位当たり純資産額（ / ）	1.1786 円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

ファンドの受益権は、振替受益権となり、委託会社は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

1. 名義書換

該当事項はありません。

2. 受益者に対する特典

特典はありません。

3. 内国投資信託受益証券の譲渡制限の内容

譲渡制限はありません。

4. 受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

5. 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

6. 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

7. 償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としてします。）にお支払いします。

8. 質権口記載又は記録の受益権の取り扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

2024年3月末日現在、資本金の額は20億円です。なお、会社の発行可能株式総数は160,000株であり、38,300株を発行済みです。

委託会社業務執行上重要な事項は、取締役会の決議をもって決定します。取締役の選任は株主総会において、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもってこれを行い、累積投票によらないものとします。取締役の任期は、選任後1年内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。取締役会はその決議をもって、取締役中より代表取締役を選任します。

投資信託の投資運用の意思決定プロセスは以下の通りです。

運用本部で運用計画案、収益分配方針案等の運用の基本方針案を作成します。

運用の基本方針は、運用本部長を委員長とする投資政策委員会で投資環境見通し等をふまえて決定されます。

決定された運用の基本方針に基づき、具体的運用計画を策定し、運用を行います。

売買の執行はトレーディング部が行います。

運用部門とは独立した運用リスク管理部門にて運用評価、ガイドライン遵守状況のチェックを行い、運用リスク管理部門担当役員を委員長としリスク管理部を事務局とする運用管理委員会に結果報告します。

運用管理委員会から投資政策委員会へ運用評価、ガイドライン遵守状況がフィードバックされ次の基本方針決定に生かされます。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行っています。

2024年3月末日現在、委託会社が運用を行っている証券投資信託（親投資信託を除きます。）は次の通りです。

	本数	純資産総額（百万円）
追加型公社債投資信託	0	0
追加型株式投資信託	172	3,579,362
単位型公社債投資信託	2	2,651
単位型株式投資信託	16	81,381
合計	190	3,663,396

3【委託会社等の経理状況】

- 1 . 当社の財務諸表は「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。
また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条及び第57条により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。
- 2 . 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第38期事業年度（2022年4月1日から2023年3月31日まで）の財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により監査を受けております。
また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間会計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）の中間財務諸表について、PwC Japan有限責任監査法人による中間監査を受けております。

なお、従来、当社が監査証明を受けているPwCあらた有限責任監査法人は、2023年12月1日付でPwC京都監査法人と合併、名称を変更しPwC Japan有限責任監査法人となりました。

(1)【貸借対照表】

(単位：千円)

	第37期 (2022年3月31日現在)	第38期 (2023年3月31日現在)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	21,389,756	20,784,858
前払費用	319,734	427,401
未収委託者報酬	2,902,834	3,200,726
未収収益	2,610,213	3,021,468
未収入金	1,692	4
その他の流動資産	22,412	18,592
流動資産計	27,246,644	27,453,052
固定資産		
有形固定資産	* 1 459,081	* 1 433,750
建物	342,403	307,934
器具備品	116,678	125,816
無形固定資産	228,727	348,422
電話加入権	3,795	3,795
ソフトウェア	188,720	314,954
ソフトウェア仮勘定	36,211	29,672
投資その他の資産	3,576,825	3,508,324
投資有価証券	42,253	48,291
関係会社株式	1,673,049	1,668,529
その他の関係会社有価証券	521,200	520,000
長期前払費用	40,588	30,700
敷金	474,324	474,324
その他長期差入保証金	21,230	21,230
繰延税金資産	804,178	954,048
投資損失引当金	-	208,800
固定資産計	4,264,634	4,290,497
資産合計	31,511,279	31,743,550
負債の部		
流動負債		
未払金	3,183,398	3,477,655
未払手数料	1,306,204	1,464,843
その他未払金	1,877,194	2,012,811
未払費用	398,447	335,471
未払消費税等	277,096	266,103
未払法人税等	1,152,000	1,210,000
預り金	46,775	60,297
前受収益	2,286	2,579
賞与引当金	287,955	288,706
その他の流動負債	7	8
流動負債計	5,347,968	5,640,822
固定負債		
退職給付引当金	845,039	886,720
固定負債計	845,039	886,720
負債合計	6,193,007	6,527,543
純資産の部		
株主資本	25,312,741	25,210,382
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金	400,000	400,000
その他資本剰余金	400,000	400,000
利益剰余金	22,912,741	22,810,382
利益準備金	500,000	500,000
その他利益剰余金	22,412,741	22,310,382
繰越利益剰余金	22,412,741	22,310,382

評価・換算差額等	5,529	5,624
その他有価証券評価差額金	5,529	5,624
純資産合計	25,318,271	25,216,006
負債・純資産合計	31,511,279	31,743,550

(2)【損益計算書】

(単位：千円)

	第37期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業収益		
委託者報酬	18,065,913	16,696,838
運用受託報酬	10,405,866	11,663,951
投資助言報酬	66,255	92,682
その他営業収益	532,829	661,029
営業収益計	29,070,864	29,114,502
営業費用		
支払手数料	8,365,057	7,669,451
広告宣伝費	216,312	206,908
調査費	6,860,898	7,435,066
調査費	2,728,988	2,823,854
委託調査費	4,131,910	4,611,211
委託計算費	115,017	119,180
営業雑経費	259,680	265,287
通信費	38,574	60,267
印刷費	175,527	160,147
協会費	24,866	23,883
諸会費	11,208	12,732
図書費	9,504	8,256
営業費用計	15,816,967	15,695,895
一般管理費		
給料	3,925,627	3,883,418
役員報酬	128,277	83,430
給料・手当	2,779,798	2,848,648
賞与	1,017,551	951,339
交際費	4,546	13,259
寄付金	2,632	4,696
旅費交通費	17,590	140,480
租税公課	167,411	174,372
不動産賃借料	468,092	468,091
退職給付費用	161,994	163,194
賞与引当金繰入	287,955	288,706
固定資産減価償却費	165,703	165,502
法定福利費	630,892	629,504
福利厚生費	12,315	10,617
諸経費	487,975	503,320
一般管理費計	6,332,736	6,445,164
営業利益	6,921,159	6,973,442
営業外収益		
受取利息	206	189
受取配当金	* 1 5,672	* 1 4,304
雑益	13,622	13,722
営業外収益計	19,500	18,216
営業外費用		
為替差損	66,106	54,263
雑損	23,333	9,120
営業外費用計	89,440	63,383
経常利益	6,851,219	6,928,275
特別利益		

投資有価証券売却益	-	480
特別利益計	-	480
特別損失		
固定資産除却損	610	190
投資有価証券評価損	-	501
投資損失引当金繰入額	-	208,800
その他特別損失	-	392
特別損失計	610	209,884
税引前当期純利益	6,850,609	6,718,870
法人税、住民税及び事業税	2,169,313	2,220,524
法人税等調整額	69,337	149,911
法人税等合計	2,099,975	2,070,612
当期純利益	4,750,633	4,648,257

(3)【株主資本等変動計算書】

第37期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金	
		その他資本 剰余金	資本剰余金 合計		その他利益 剰余金	
					特別償却 準備金	繰越利益 剰余金
当期首残高	2,000,000	400,000	400,000	500,000	0	22,599,322
当期変動額						
剰余金の配当						4,937,214
特別償却準備金の取崩					0	0
当期純利益						4,750,633
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						
当期変動額合計	-	-	-	-	0	186,580
当期末残高	2,000,000	400,000	400,000	500,000	-	22,412,741

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等 合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	23,099,322	25,499,322	6,393	6,393	25,505,715
当期変動額					
剰余金の配当	4,937,214	4,937,214			4,937,214
特別償却準備金の取崩	-	-			-
当期純利益	4,750,633	4,750,633			4,750,633
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			863	863	863
当期変動額合計	186,580	186,580	863	863	187,444
当期末残高	22,912,741	25,312,741	5,529	5,529	25,318,271

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	
		その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益 剰余金
				繰越利益 剰余金	
当期首残高	2,000,000	400,000	400,000	500,000	22,412,741
当期変動額					
剰余金の配当					4,750,617
当期純利益					4,648,257
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	-	-	102,359
当期末残高	2,000,000	400,000	400,000	500,000	22,310,382

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等 合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	22,912,741	25,312,741	5,529	5,529	25,318,271
当期変動額					
剰余金の配当	4,750,617	4,750,617			4,750,617
当期純利益	4,648,257	4,648,257			4,648,257
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			94	94	94
当期変動額合計	102,359	102,359	94	94	102,264
当期末残高	22,810,382	25,210,382	5,624	5,624	25,216,006

注記事項

(重要な会計方針)

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式並びにその他の関係会社有価証券

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

当事業年度末日の市場価格等に基づく時価法

（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。また、取得価額が10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、一括償却資産として3年間で均等償却する方法を採用しております。

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額の当期負担額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日から翌事業年度から費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

(3) 投資損失引当金

関係会社等への投資に係る損失に備えるため、当該会社の財政状態等を勘案して必要と認められる額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社は、顧客への投資運用業及び投資助言・代理業に関するサービスから生じる委託者報酬、運用受託報酬等により収益を獲得しております。これらには成功報酬が含まれる場合があります。

(1) 運用報酬

投資運用・助言サービスのうち運用資産残高等を基礎として算定される報酬（運用報酬）については、当該サービスに係る履行義務は日々充足されると判断し、運用期間にわたり収益として認識しております。確定した報酬は、月次、年4回、年2回もしくは年1回受け取ります。

(2) 成功報酬

成功報酬は、契約上定められる超過収益の達成等により履行義務を充足し、報酬額及び支払われることが確定した時点で収益として認識しております。確定した報酬は、履行義務充足時点から短期間で支払いを受けます。

（重要な会計上の見積り）

第37期 2022年3月31日現在	第38期 2023年3月31日現在
当事業年度の財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌事業年度の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクを識別していないため、注記を省略しております。	同左

（貸借対照表関係）

第37期 2022年3月31日現在	第38期 2023年3月31日現在
* 1. 有形固定資産の減価償却累計額は次のとおりであります。	* 1. 有形固定資産の減価償却累計額は次のとおりであります
建物 182,121千円	建物 217,486千円
器具備品 501,021千円	器具備品 477,945千円

（損益計算書関係）

第37期 自 2021年4月1日 至 2022年3月31日	第38期 自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
<p>* 1 . 関係会社との主な取引高は次のとおりであります。</p> <p style="text-align: center;">関係会社からの受取配当金 2,000千円</p> <p>上記のほか、関係会社に対する営業外収益のうち、雑益の合計額は営業外収益の総額の100分の10を超えており、その金額は8,520千円であります。</p>	<p>* 1 . 関係会社との主な取引高は次のとおりであります。</p> <p style="text-align: center;">関係会社からの受取配当金 3,605千円</p> <p>上記のほか、関係会社に対する営業外収益のうち、雑益の合計額は営業外収益の総額の100分の10を超えており、その金額は9,067千円であります。</p>

(株主資本等変動計算書関係)

第37期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1 . 発行済株式に関する事項

(単位：株)

株式の種類	2021年4月1日 現在	増加	減少	2022年3月31日 現在
普通株式	38,300	-	-	38,300

2 . 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

2021年6月30日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	4,937,214千円
(ロ) 1株当たり配当額	128,909円
(ハ) 基準日	2021年3月31日
(ニ) 効力発生日	2021年6月30日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2022年6月30日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	4,750,617千円
(ロ) 配当の原資	繰越利益剰余金
(ハ) 1株当たり配当額	124,037円
(ニ) 基準日	2022年3月31日
(ホ) 効力発生日	2022年6月30日

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1 . 発行済株式に関する事項

(単位：株)

株式の種類	2022年4月1日 現在	増加	減少	2023年3月31日 現在
普通株式	38,300	-	-	38,300

2 . 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

2022年6月30日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	4,750,617千円
(ロ) 1株当たり配当額	124,037円
(ハ) 基準日	2022年3月31日
(ニ) 効力発生日	2022年6月30日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの
2023年6月29日の定時株主総会において、次のとおり配当を提案する予定であります。

・普通株式の配当に関する事項	
（イ）配当金の総額	4,648,241千円
（ロ）配当の原資	繰越利益剰余金
（ハ）1株当たり配当額	121,364円
（ニ）基準日	2023年3月31日
（ホ）効力発生日	2023年6月29日

（金融商品関係）

1．金融商品の状況に関する事項

第37期 自 2021年4月1日 至 2022年3月31日	第38期 自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
<p>(1) 金融商品に対する取組方針 当社の資本は本来の事業目的のために使用することを基本とし、資産の運用に際しては、資産運用リスクを極力最小限に留めることを基本方針としております。</p> <p>(2) 金融商品の内容及びそのリスク 営業債権である未収収益は顧客の信用リスクに晒されており、未収委託者報酬は市場リスクに晒されております。投資有価証券は、主にファンドの自己設定に関連する投資信託であり、基準価額の変動リスクに晒されております。</p> <p>営業債務である未払金は、ほとんど1年以内の支払期日であり、流動性リスクに晒されております。</p> <p>(3) 金融商品に係るリスク管理体制 信用リスク 未収収益については、管理部門において取引先ごとに期日及び残高を把握することで、回収懸念の早期把握や軽減を図っております。</p> <p>市場リスク 未収委託者報酬には、運用資産の悪化から回収できず当社が損失を被るリスクが存在しますが、過去の回収実績からリスクは僅少であると判断しております。</p> <p>投資有価証券については、管理部門において定期的に時価を把握する体制としております。</p> <p>流動性リスク 当社は、日々資金残高管理を行っており流動性リスクを管理しております。</p>	<p>(1) 金融商品に対する取組方針 同左</p> <p>(2) 金融商品の内容及びそのリスク 同左</p> <p>(3) 金融商品に係るリスク管理体制 信用リスク 同左</p> <p>市場リスク 同左</p> <p>流動性リスク 同左</p>

2．金融商品の時価等に関する事項

第37期（2022年3月31日現在）

2022年3月31日現在における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
投資有価証券			
その他有価証券	42,253	42,253	-
敷金	474,324	474,362	37
資産計	516,578	516,616	37

(注1) 以下の金融商品については、現金であること、及び短期で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

- 現金・預金
- 未収委託者報酬
- 未収収益
- 未収入金
- 預り金
- 未払金
- 未払費用

(注2) 関係会社株式及びその他の関係会社有価証券（持分相当額を純額で計上する組合等への出資1,200千円を除く）については、市場価格のない株式等に該当することから、時価を注記しておりません。これらの貸借対照表計上額は、それぞれ以下のとおりです。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額
関係会社株式	
子会社株式	1,640,302
関連会社株式	32,747
その他の関係会社有価証券	520,000

(注3) その他の関係会社有価証券のうち1,200千円については、貸借対照表に持分相当額を純額で計上する組合等への出資に該当するため、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日改正)の第24-16項を適用し、時価に関する注記を省略しております。

(注4) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの	-	21,628	538	-
合計	-	21,628	538	-

第38期(2023年3月31日現在)

2023年3月31日現在における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
投資有価証券 その他有価証券	48,291	48,291	-
敷金	474,324	475,064	739
資産計	522,615	523,355	739

(注1) 以下の金融商品については、現金であること、及び短期で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

現金・預金
未収委託者報酬
未収収益
未収入金
預り金
未払金
未払費用

(注2) 関係会社株式及びその他の関係会社有価証券については、市場価格のない株式等に該当することから、時価を注記しておりません。これらの貸借対照表計上額は、それぞれ以下のとおりです。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額
関係会社株式	
子会社株式	1,640,302
関連会社株式	28,227
その他の関係会社有価証券	520,000

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの	1,679	18,855	995	995
合計	1,679	18,855	995	995

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

第37期（2022年3月31日現在）

金融商品の時価を時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

- レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価
- レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価
- レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

(1)時価で貸借対照表に計上している金融商品

(単位：千円)

	時価			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
投資有価証券 其他有価証券	-	42,253	-	42,253
資産計	-	42,253	-	42,253

(2)時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位：千円)

	時価			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
敷金	-	474,362	-	474,362
資産計	-	474,362	-	474,362

(注)時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

投資信託は基準価額を用いて評価しており、活発な市場における相場価格とはいえないことから、レベル2の時価に分類しております。

敷金

敷金は、回収可能性を反映した将来キャッシュ・フローを残存期間に対応する国債の利回り等で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

第38期（2023年3月31日現在）

金融商品の時価を時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

- レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価
- レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価
- レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

(1)時価で貸借対照表に計上している金融商品

(単位：千円)

	時価			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
投資有価証券 其他有価証券	-	48,291	-	48,291
資産計	-	48,291	-	48,291

(2)時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位：千円)

	時価			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
敷金	-	475,064	-	475,064

資産計	-	475,064	-	475,064
-----	---	---------	---	---------

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

投資信託は基準価額を用いて評価しており、活発な市場における相場価格とはいえないことから、レベル2の時価に分類しております。

敷金

敷金は、回収可能性を反映した将来キャッシュ・フローを残存期間に対応する国債の利回り等で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

第37期 2022年3月31日現在				第38期 2023年3月31日現在			
1. 子会社株式及び関連会社株式並びにその他の関係会社有価証券				1. 子会社株式及び関連会社株式並びにその他の関係会社有価証券			
子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式1,640,302千円、関連会社株式32,747千円)並びにその他の関係会社有価証券(貸借対照表計上額 521,200千円)は、市場価格のない株式等又は貸借対照表に持分相当額を純額で計上する組合等への出資に該当することから、記載しておりません。				子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式1,640,302千円、関連会社株式28,227千円)並びにその他の関係会社有価証券(貸借対照表計上額 520,000千円)は、市場価格のない株式等に該当することから、記載しておりません。			
2. その他有価証券 (単位:千円)				2. その他有価証券 (単位:千円)			
	貸借対照表計上額	取得原価	差額		貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの証券投資信託	37,421	28,638	8,783	貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの証券投資信託	27,605	18,645	8,960
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの証券投資信託	4,832	5,645	813	貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの証券投資信託	20,685	21,539	853
合計	42,253	34,283	7,970	合計	48,291	40,184	8,106
3. 当事業年度中に売却したその他有価証券 該当事項はありません。				3. 当事業年度中に売却したその他有価証券 同左			
				4. 減損処理を行った有価証券 当事業年度において、有価証券について501千円(その他有価証券の証券投資信託501千円)減損処理を行っております。			

(収益認識関係)

第37期(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位:千円)

	運用報酬	成功報酬	合計
--	------	------	----

委託者報酬	18,065,913	-	18,065,913
運用受託報酬	10,155,263	250,602	10,405,866
投資助言報酬	66,255	-	66,255
その他営業収益	532,829	-	532,829
合計	28,820,261	250,602	29,070,864

2. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から当事業年度の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

顧客との契約から生じた債権等

顧客との契約から生じた債権（期首残高） 5,349,421千円

顧客との契約から生じた債権（期末残高） 5,513,048千円

（*）なお、当事業年度の期首及び期末において、顧客との契約から生じた契約資産及び契約負債はありません。

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

（単位：千円）

	運用報酬	成功報酬	合計
委託者報酬	16,696,838	-	16,696,838
運用受託報酬	11,529,748	134,202	11,663,951
投資助言報酬	92,682	-	92,682
その他営業収益	661,029	-	661,029
合計	28,980,299	134,202	29,114,502

2. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から当事業年度の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

顧客との契約から生じた債権等

顧客との契約から生じた債権（期首残高） 5,513,048千円

顧客との契約から生じた債権（期末残高） 6,222,195千円

（*）なお、当事業年度の期首及び期末において、顧客との契約から生じた契約資産及び契約負債はありません。

（退職給付関係）

第37期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に備えるため、非積立型の確定給付制度及び確定拠出年金制度を採用しております。

退職一時金制度（非積立型制度であります。）では、当社従業員を制度対象として、給与と勤続年数に基づき算出した一時金を支給しております。受入出向者については退職給付負担金を支払っており、損益計算書上の退職給付費用には当該金額が含まれております。貸借対照表上は出向期間3年以下の出向者に係る金額が退職給付引当金に、出向期間3年超の出向者に係る金額がその他未払金にそれぞれ含まれております。

2. 確定給付制度

- (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	800,611千円
勤務費用	69,820千円

利息費用	3,143千円
数理計算上の差異の発生額	9,121千円
退職給付の支払額	29,833千円
退職給付債務の期末残高	852,862千円

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

積立型制度の退職給付債務	-
年金資産	-
	-
非積立型制度の退職給付債務	852,862千円
未積立退職給付債務	852,862千円
未認識数理計算上の差異	7,823千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	845,039千円
退職給付引当金	845,039千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	845,039千円

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	69,820千円
利息費用	3,143千円
数理計算上の差異の費用処理額	267千円
その他	10,130千円
確定給付制度に係る退職給付費用	82,826千円

(4) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

割引率 0.4%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、79,167千円であります。

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に備えるため、非積立型の確定給付制度及び確定拠出年金制度を採用しております。

退職一時金制度（非積立型制度であります。）では、当社従業員を制度対象として、給与と勤続年数に基づき算出した一時金を支給しております。受入出向者については退職給付負担金を支払っており、損益計算書上の退職給付費用には当該金額が含まれております。貸借対照表上は出向期間3年以下の出向者に係る金額が退職給付引当金に、出向期間3年超の出向者に係る金額がその他未払金にそれぞれ含まれております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	852,862千円
勤務費用	70,929千円
利息費用	3,351千円
数理計算上の差異の発生額	24,231千円
退職給付の支払額	33,244千円

退職給付債務の期末残高	869,667千円
-------------	-----------

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

積立型制度の退職給付債務	-
年金資産	-
	-
非積立型制度の退職給付債務	869,667千円
未積立退職給付債務	869,667千円
未認識数理計算上の差異	17,052千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	886,720千円
退職給付引当金	886,720千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	886,720千円

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	70,929千円
利息費用	3,351千円
数理計算上の差異の費用処理額	644千円
その他	6,556千円
確定給付制度に係る退職給付費用	81,482千円

(4) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

割引率 0.8%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、81,712千円であります。

（税効果会計関係）

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第37期 (2022年3月31日現在)	第38期 (2023年3月31日現在)
繰延税金資産		
退職給付引当金	258,750千円	271,513千円
未払金	3,366千円	2,092千円
賞与引当金	88,171千円	88,401千円
未払法定福利費	11,424千円	11,663千円
未払事業所税	3,958千円	3,929千円
未払事業税	61,773千円	64,984千円
未払調査費	90,375千円	102,531千円
減価償却超過額	53,430千円	24,211千円
繰延資産超過額	8,569千円	9,605千円
未払確定拠出年金	2,038千円	2,120千円
未収実績連動報酬	31,195千円	48,549千円
投資損失引当金	-	63,934千円
未払費用	195,620千円	267,102千円
繰延税金資産小計	808,674千円	960,642千円

評価性引当額	-	-
繰延税金資産合計	808,674千円	960,642千円
繰延税金負債		
前払費用	2,055千円	4,110千円
その他有価証券評価差額金	2,440千円	2,482千円
繰延税金負債合計	4,495千円	6,593千円
繰延税金資産の純額	804,178千円	954,048千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

第37期 (2022年3月31日現在)	第38期 (2023年3月31日現在)
法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。	同左

3. 法人税及び地方法人税に関する税効果会計の会計処理

当社は、当事業年度からグループ通算制度を適用しているため、法人税及び地方法人税の会計処理またはこれらに関する税効果会計の会計処理および開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日)を当事業年度の期首から適用しています。

(セグメント情報等)

第37期 自 2021年4月1日 至 2022年3月31日	第38期 自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
<p>[セグメント情報]</p> <p>当社は「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として運用(投資運用業)を行っております。また「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業を行っております。</p> <p>当社は、投資運用業及び投資助言・代理業にこれらの附帯業務を集約した単一セグメントを報告セグメントとしております。従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。</p>	<p>[セグメント情報]</p> <p>同左</p>

[関連情報]

1. 製品及びサービスごとの情報

単一のサービス区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

(単位：千円)

日本	その他	合計
26,067,627	3,003,236	29,070,864

(注) 営業収益は顧客の所在地を基準とし、国ごとに分類しております。

(2) 有形固定資産

同左

3. 主要な顧客ごとの情報

(1) 投資信託の名称

東京海上・円資産バランスファンド（毎月決算型）

(2) 委託者報酬

4,883,617千円

(3) 関連するセグメント名

投資運用業及び投資助言・代理業にこれらの附帯業務を集約した単一セグメント

[関連情報]

1. 製品及びサービスごとの情報

同左

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

(単位：千円)

日本	その他	合計
25,542,522	3,571,980	29,114,502

(注) 営業収益は顧客の所在地を基準とし、国ごとに分類しております。

(2) 有形固定資産

同左

3. 主要な顧客ごとの情報

(1) 投資信託の名称

東京海上・円資産バランスファンド（毎月決算型）

(2) 委託者報酬

3,989,751千円

(3) 関連するセグメント名

投資運用業及び投資助言・代理業にこれらの附帯業務を集約した単一セグメント

(関連当事者情報)

第37期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1. 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等重要な取引はありません。

(2) 財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等重要な取引はありません。

(3) 財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等重要な取引はありません。

(4) 財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等重要な取引はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する情報

(1) 親会社情報

東京海上ホールディングス株式会社（東京証券取引所に上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

重要な関連会社はありません。

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1. 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等重要な取引はありません。

(2) 財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等

重要な取引はありません。

- (3) 財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等重要な取引はありません。
- (4) 財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等重要な取引はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する情報

(1) 親会社情報

東京海上ホールディングス株式会社（東京証券取引所に上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

重要な関連会社はありません。

(1 株当たり情報)

第37期 自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日	
1 株当たり純資産額	661,051円47銭
1 株当たり当期純利益金額	124,037円43銭
なお、潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	
(注) 1 株当たり純資産額の算定上の基礎	
貸借対照表の純資産の部の合計額	25,318,271千円
純資産の部の合計額から控除する金額	-
普通株式に係る当期末の純資産額	25,318,271千円
1 株当たり純資産額の算定に用いられた当期末の普通株式の数	38,300株
1 株当たり当期純利益金額の算定上の基礎	
損益計算書上の当期純利益金額	4,750,633千円
普通株主に帰属しない金額	-
普通株式に係る当期純利益金額	4,750,633千円
普通株式の期中平均株式数	38,300株

第38期 自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日	
1 株当たり純資産額	658,381円38銭
1 株当たり当期純利益金額	121,364円43銭
なお、潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	
(注) 1 株当たり純資産額の算定上の基礎	
貸借対照表の純資産の部の合計額	25,216,006千円
純資産の部の合計額から控除する金額	-
普通株式に係る当期末の純資産額	25,216,006千円
1 株当たり純資産額の算定に用いられた当期末の普通株式の数	38,300株

1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎

損益計算書上の当期純利益金額	4,648,257千円
普通株主に帰属しない金額	-
普通株式に係る当期純利益金額	4,648,257千円
普通株式の期中平均株式数	38,300株

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

当中間会計期間 (2023年9月30日現在)		
資産の部		
流動資産		
現金・預金		17,035,638
前払費用		389,252
未収委託者報酬		3,391,959
未収収益		4,101,522
未収入金		56,743
その他の流動資産		25,714
流動資産計		25,000,830
固定資産		
有形固定資産	* 1	686,176
建物		459,184
器具備品		226,992
無形固定資産		404,235
電話加入権		3,795
ソフトウェア		379,399
ソフトウェア仮勘定		21,041
投資その他の資産		3,812,118
投資有価証券		46,106
関係会社株式		1,668,529
その他の関係会社有価証券		530,000
長期前払費用		22,304
敷金		474,324
その他長期差入保証金		21,230
繰延税金資産		1,258,424
投資損失引当金		208,800
固定資産計		4,902,530
資産合計		29,903,361
負債の部		
流動負債		
未払金		3,694,268
未払手数料		1,546,039
その他未払金		2,148,229
未払費用		342,443
未払消費税等	* 2	233,391
未払法人税等		1,355,000
預り金		61,660
前受収益		13,302
賞与引当金		569,018
その他の流動負債		35

流動負債計	6,269,121
固定負債	
退職給付引当金	914,386
固定負債計	914,386
負債合計	7,183,508
純資産の部	
株主資本	22,712,318
資本金	2,000,000
資本剰余金	400,000
その他資本剰余金	400,000
利益剰余金	20,312,318
利益準備金	500,000
その他利益剰余金	19,812,318
繰越利益剰余金	19,812,318
評価・換算差額等	7,534
その他有価証券評価差額金	7,534
純資産合計	22,719,853
負債・純資産合計	29,903,361

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	当中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業収益	
委託者報酬	8,494,444
運用受託報酬	6,212,505
投資助言報酬	50,944
その他営業収益	332,443
営業収益計	15,090,338
営業費用	
支払手数料	3,930,561
広告宣伝費	96,009
調査費	4,039,695
調査費	1,610,330
委託調査費	2,429,365
委託計算費	59,548
営業雑経費	133,241
通信費	29,396
印刷費	76,803
協会費	12,345
諸会費	9,611
図書費	5,084
営業費用計	8,259,058
一般管理費	
給料	1,675,634
役員報酬	41,325
給料・手当	1,488,342
賞与	145,966
交際費	10,489
寄付金	7,593
旅費交通費	78,583
租税公課	90,871

不動産賃借料		234,045
退職給付費用		88,001
賞与引当金繰入		569,018
固定資産減価償却費	* 1	107,128
法定福利費		343,406
福利厚生費		10,622
諸経費		403,938
一般管理費計		3,619,333
営業利益		3,211,946
営業外収益		
受取利息		68
受取配当金		955
雑益		7,395
営業外収益計		8,419
営業外費用		
為替差損		58,090
雑損		14,371
営業外費用計		72,462
経常利益		3,147,903
特別利益		
投資有価証券売却益		829
その他特別利益		402
特別利益計		1,232
特別損失		
固定資産除却損		30,348
特別損失計		30,348
税引前中間純利益		3,118,787
法人税、住民税及び事業税		1,273,828
法人税等調整額		305,218
法人税等合計		968,609
中間純利益		2,150,177

(3) 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	
		その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金
当期首残高	2,000,000	400,000	400,000	500,000	22,310,382
当中間期変動額					
剰余金の配当					4,648,241
中間純利益					2,150,177
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)					
当中間期変動額合計	-	-	-	-	2,498,063
当中間期末残高	2,000,000	400,000	400,000	500,000	19,812,318

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等 合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	22,810,382	25,210,382	5,624	5,624	25,216,006
当中間期変動額					
剰余金の配当	4,648,241	4,648,241			4,648,241
中間純利益	2,150,177	2,150,177			2,150,177
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)			1,910	1,910	1,910
当中間期変動額合計	2,498,063	2,498,063	1,910	1,910	2,496,153
当中間期末残高	20,312,318	22,712,318	7,534	7,534	22,719,853

注記事項

(重要な会計方針)

当中間会計期間 自 2023年4月1日 至 2023年9月30日
<p>1. 有価証券の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 子会社株式及び関連会社株式並びにその他の関係会社有価証券 移動平均法による原価法</p> <p>(2) その他有価証券 市場価格のない株式等以外のもの 中間会計期間末日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) 市場価格のない株式等 移動平均法による原価法</p> <p>2. 固定資産の減価償却の方法</p> <p>(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。また、取得価額が10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、一括償却資産として3年間で均等償却する方法を採用しております。</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p> <p>3. 引当金の計上基準</p> <p>(1) 賞与引当金 従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。</p> <p>(2) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当中間会計期間末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法</p>

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

(3) 投資損失引当金

関係会社等への投資に係る損失に備えるため、当該会社の財政状態等を勘案して必要と認められる額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社は、顧客への投資運用業及び投資助言・代理業に関するサービスから生じる委託者報酬、運用受託報酬等により収益を獲得しております。これらには成功報酬が含まれる場合があります。

(1) 運用報酬

投資運用・助言サービスのうち運用資産残高等を基礎として算定される報酬（運用報酬）については、当該サービスに係る履行義務は日々充足されると判断し、運用期間にわたり収益として認識しております。確定した報酬は、月次、年4回、年2回もしくは年1回受け取ります。

(2) 成功報酬

成功報酬は、契約上定められる超過収益の達成等により履行義務を充足し、報酬額及び支払われることが確定した時点で収益として認識しております。確定した報酬は、履行義務充足時点から短期間で支払いを受けます。

(中間貸借対照表関係)

	当中間会計期間 (2023年9月30日現在)	
1 有形固定資産の減価償却累計額	建物	221,024千円
	器具備品	422,332千円

(中間損益計算書関係)

	当中間会計期間 自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	
1 減価償却実施額	有形固定資産	56,407千円
	無形固定資産	50,721千円

(中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間 自 2023年4月1日 至 2023年9月30日				
1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項				
株式の種類	当事業年度期首 (株)	当中間会計期間 増加 (株)	当中間会計期間 減少 (株)	当中間会計期間末 (株)
普通株式	38,300	-	-	38,300
2. 配当に関する事項				

配当金支払額

2023年6月29日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

- (イ) 配当金の総額・・・・・・・・・・4,648,241千円
- (ロ) 1株当たり配当額・・・・・・・・・・121,364円
- (ハ) 基準日・・・・・・・・・・2023年3月31日
- (ニ) 効力発生日・・・・・・・・・・2023年6月29日

(金融商品関係)

当中間会計期間（2023年9月30日現在）

1. 金融商品の時価等に関する事項

2023年9月30日現在における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
投資有価証券			
その他有価証券	46,106	46,106	-
敷金	474,324	473,425	899
資産計	520,430	519,531	899

(注1) 以下の金融商品については、現金であること、及び短期で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

- 現金・預金
- 未収委託者報酬
- 未収収益
- 未収入金
- 預り金
- 未払金
- 未払費用

(注2) 関係会社株式及びその他の関係会社有価証券については、市場価格のない株式等に該当することから、時価を注記しておりません。これらの中間貸借対照表計上額は、それぞれ以下のとおりです。

(単位：千円)

	中間貸借対照表計上額
関係会社株式	
子会社株式	1,640,302
関連会社株式	28,227
その他の関係会社有価証券	530,000

2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

- レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価
- レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価
- レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

(1)時価で中間貸借対照表に計上している金融商品

(単位：千円)

	時価			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
投資有価証券				
その他有価証券	-	46,106	-	46,106
資産計	-	46,106	-	46,106

(2)時価で中間貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位：千円)

	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
敷金	-	473,425	-	473,425
資産計	-	473,425	-	473,425

(注)時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

投資信託は基準価額を用いて評価しており、活発な市場における相場価格とはいえないことから、レベル2の時価に分類しております。

敷金

敷金は、回収可能性を反映した将来キャッシュ・フローを残存期間に対応する国債の利回り等で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

当中間会計期間（2023年9月30日現在）

その他有価証券

(単位：千円)

	種類	中間貸借対照表 計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	証券投資信託	34,038	21,163	12,875
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	証券投資信託	12,067	14,082	2,015
合計		46,106	35,245	10,860

(収益認識関係)

当中間会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

1.顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：千円)

	運用報酬	成功報酬	合計
委託者報酬	8,494,444	-	8,494,444
運用受託報酬	6,151,982	60,523	6,212,505
投資助言報酬	50,944	-	50,944
その他営業収益	332,443	-	332,443
合計	15,029,814	60,523	15,090,338

2.顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当中間会計期間末において存在する顧客との契約から当中間会計期間の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

顧客との契約から生じた債権等

顧客との契約から生じた債権（期首残高） 6,222,195千円

顧客との契約から生じた債権（期末残高） 7,493,481千円

(*)なお、当中間会計期間の期首及び期末において、顧客との契約から生じた契約資産及び契約負債はありません。

(セグメント情報等)

[セグメント情報]

当中間会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

当社は「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として運用(投資運用業)を行っております。また「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業を行っております。当社は、投資運用業及び投資助言・代理業にこれらの附帯業務を集約した単一セグメントを報告セグメントとしております。従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

[関連情報]

当中間会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一のサービス区分の外部顧客への営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

(単位:千円)

日本	その他	合計
13,272,571	1,817,766	15,090,338

(注)営業収益は顧客の所在地を基準とし、国ごとに分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

投資信託の名称	委託者報酬	関連するセグメント名
東京海上・円資産バランスファンド (毎月決算型)	1,662,509千円	投資運用業及び投資助言・代理業にこれらの附帯業務を集約した単一セグメント

(1 株当たり情報)

当中間会計期間 自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	
1株当たり純資産額	593,207円66銭
1株当たり中間純利益金額	56,140円40銭
なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。	
(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎	
中間貸借対照表の純資産の部の合計額	22,719,853千円
純資産の部の合計額から控除する金額	-
普通株式に係る中間会計期間末の純資産額	22,719,853千円
1株当たり純資産額の算定に用いられた中間会計期間末の普通株式の数	38,300株
1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎	
中間損益計算書上の中間純利益金額	2,150,177千円
普通株主に帰属しない金額	-
普通株式に係る中間純利益金額	2,150,177千円
普通株式の期中平均株式数	38,300株

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

通常の利用の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。)又は子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引又は金融デリバティブ取引を行うこと。

委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

(1)定款の変更

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

(2)訴訟事件その他の重要事項

提出日現在、訴訟事件その他委託会社等に重要な影響を及ぼした事実、及び重要な影響を与えることが予想される事実はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託会社

- ・ 名称 三菱UFJ信託銀行株式会社
(再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社)
- ・ 資本金の額 324,279百万円(2023年3月末日現在)
- ・ 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。

<参考情報：再信託受託会社の概要>

- ・ 名称 日本マスタートラスト信託銀行株式会社
- ・ 資本金の額 10,000百万円(2023年3月末日現在)
- ・ 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

名称	資本金の額()	事業の内容
あかつき証券株式会社	3,067百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
auカブコム証券株式会社	7,196百万円	
S M B C 日興証券株式会社	10,000百万円	
株式会社 S B I 証券	48,323百万円	
東海東京証券株式会社	6,000百万円	
百五証券株式会社	3,000百万円	
松井証券株式会社	11,945百万円	
マネックス証券株式会社	12,200百万円	
みずほ証券株式会社	125,167百万円	
楽天証券株式会社	19,495百万円	
株式会社秋田銀行	14,100百万円	銀行法に基づき銀行業を営んでいます。
株式会社京都銀行	42,103百万円	
株式会社栃木銀行	27,408百万円	
株式会社名古屋銀行	25,090百万円	
株式会社百五銀行	20,000百万円	
三菱UFJ信託銀行株式会社	324,279百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

() 2023年3月末日現在。

2【関係業務の概要】

受託会社は、信託財産の保管・管理等を行います。また、当ファンドにかかる信託事務の一部につき日本マスタートラスト信託銀行株式会社に委託することがあります。

販売会社は、募集・販売の取扱い、一部解約事務および収益分配金・解約金・償還金の支払い等を行います。

3【資本関係】

資本関係はありません。

第3【その他】

- 1．目論見書の表紙にロゴ・マーク、図案を使用し、委託会社の名称、ファンドの基本的性格等を記載することがあります。
- 2．目論見書の表紙に委託会社の金融商品取引業者登録番号および目論見書の使用を開始する日を記載する場合があります。
- 3．請求目論見書に当ファンドの約款を添付します。
- 4．目論見書の別称として「投資信託説明書（目論見書）」、「投資信託説明書（交付目論見書）」または「投資信託説明書（請求目論見書）」という名称を使用することがあります。
- 5．目論見書は電子媒体として使用されたり、インターネット等に掲載されることがあります。

独立監査人の監査報告書

2023年6月5日

東京海上アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

PwCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 奈良 昌彦
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 久保 直毅
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている東京海上アセットマネジメント株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第38期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東京海上アセットマネジメント株式会社の2023年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2024年5月24日

東京海上アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

PwC Japan有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員

業務執行社員

公認会計士 久保 直毅

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている東京海上・円建て投資適格債券ファンド（年2回決算型）の2023年9月26日から2024年3月25日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東京海上・円建て投資適格債券ファンド（年2回決算型）の2024年3月25日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、東京海上アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

東京海上アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2023年12月5日

東京海上アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

PwC Japan有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 久保直毅
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 石井章悟
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている東京海上アセットマネジメント株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第39期事業年度の中間会計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、東京海上アセットマネジメント株式会社の2023年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。